

ORIGAMI

TANTEIDAN

# 折紙探偵団

M A G A Z I N E

## 津田良夫さんを偲ぶ特集号

Special Issue in Memory of Tsuda Yoshio

折り図 Diagrams

### 蚊、下駄

Mosquito, Geta (Japanese Wooden Clog)

津田良夫

Tsuda Yoshio



おりがみ我楽多市 Origami Odds and Ends

「編み上げ靴(2019年版)」「ランドセル」津田良夫

Lace-Up Shoes, Randoseru (Schoolkids' Backpack) : Tsuda Yoshio

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

「ワシミズク」中村康佑

Eagle Owl: Nakamura Kosuke

ユニット折り紙カルテット Modular Origami Quartette

「オシロ」川村みゆき

Oscillo: Kawamura Miyuki



第34期会員特別配付資料

The 34th Year Annual Special Issue  
for the Regular JOAS Members

「ケープペンギン」神谷哲史

African Penguin: Kamiya Satoshi

「アカシカ」今井雄大

Red Deer: Imai Yudai

「カモノハシ」満田 茂

Platypus: Mitsuda Shigeru

通巻 **204** 号

# 日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

## 第一章 名称と目的

### 第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

### 第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

## Chapter 1: Name and Purpose

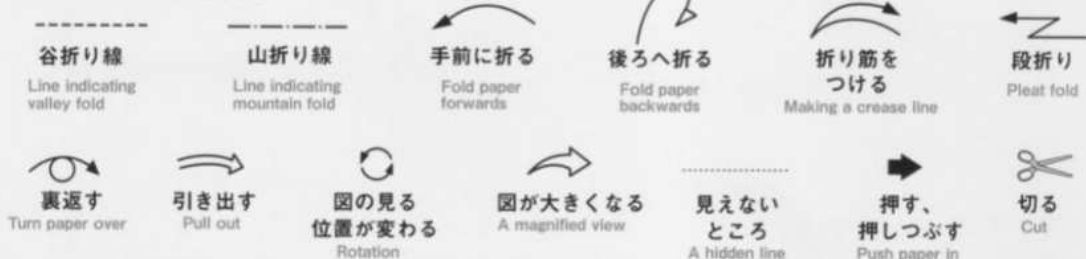
### Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

### Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

## ● 折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



表紙掲載作品: 「オシロ」 創作:川村みゆき、「編み上げ靴、ランドセル」 創作:津田良夫、「ワシミズク」 創作:中村康佑、「蚊、下駄」 創作:津田良夫

"Oscillo" by Kawamura Miyuki, "Lace-Up Shoes, Randoseru (Schoolkids' Backpack)" by Tsuda Yoshio, "Eagle Owl" by Nakamura Kosuke, "Mosquito, Geta (Japanese Wooden Clog)" by Tsuda Yoshio

No. **204**



Eagle Owl: Nakamura Kosuke

クローズアップ / Close-up

P.14 特集:1月30日ご逝去  
津田良夫さんを偲ぶ  
Memories of Tsuda Yoshio  
(Passed away on Jan. 30)

折り図・展開図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 展開図折りに挑戦!  
Crease Pattern Challenge!  
**ワシミミズク**  
Eagle Owl  
中村康佑  
Nakamura Kosuke

P.27 蚊、下駄  
Mosquito, Geta (Japanese Wooden Clog)

津田良夫  
Tsuda Yoshio



カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー  
Origami Photo Gallery  
今号の折り図・展開図掲載作品より  
Models Based on Diagrams and Crease  
Patterns of This Issue

解説・前川 淳  
Comments: Maekawa Jun

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折り紙カルテット 川村みゆき  
Modular Origami Quartette Kawamura Miyuki  
オシロ  
Oscillo

P.8 おりがみ我楽多市 津田良夫  
Origami Odds and Ends Tsuda Yoshio  
編み上げ靴(2019年版)、ランドセル  
Lace-Up Shoes,  
Randoseru (Schoolkids' Backpack)

読み物 / Articles

P.18 折紙図書館の本棚から 峯尾彰太郎  
From the Bookshelves of the JOAS Library Mineo Shotaro  
「創作折り紙をつくる」津田良夫 著  
"Designing Origami Models" by Tsuda Yoshio

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺 布施知子  
Origami and Its Neighbors Fuse Tomoko

P.39 おりすじ 宮永智悠  
Orisuzi ("Fold-Creases") Miyanaga Tomohiro

情報 / Information

P.38 日本折紙学会34期事業報告と35期予定  
The JOAS Report on the 34th Fiscal Year and Its Plans for  
the 35th Year

P.40 つまみおり Rabbit Ear

**川村みゆき**  
 Kawamura Miyuki

やわらかユニット物語2  
**第15話 2Dの模様**  
 2D Patterns

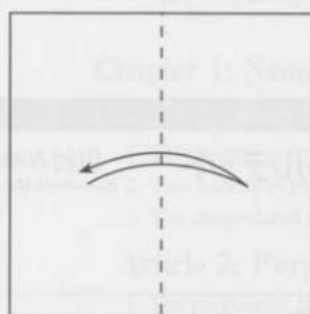


オシロスコープの波形のような模様が出てきます。パーツ同士を組み合わせるユニット作品では、思いがけず面白い模様が現れることがあります。定番の組み方をするユニットの中にも、まだまだ新しい発見があるかもしれません。

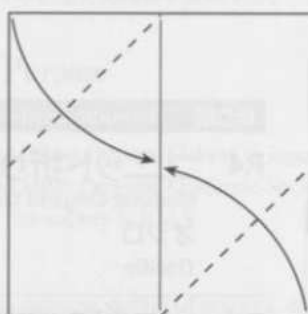
Waveform like Oscilloscope will appear on the surface. In modular works made by combining parts, unexpected and interesting patterns may appear. There may still be new discoveries to be made even among units that are assembled in standard ways.

**【オシロ】** ©2024 川村みゆき (KAWAMURA, Miyuki)  
 創作日 (Date of Creation) 2023/09/29

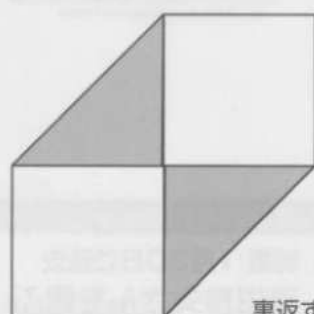
Oscillo



①

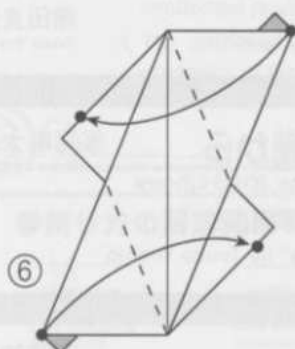


②



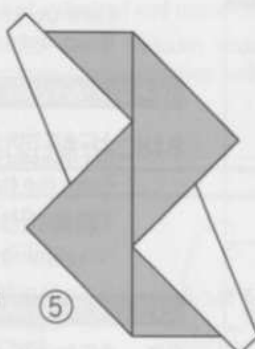
③

裏返す  
 Turn the model over

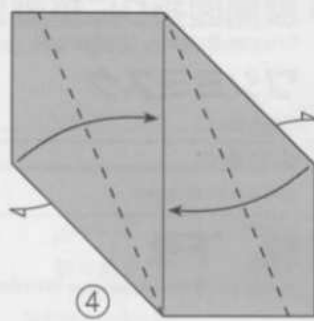


⑥

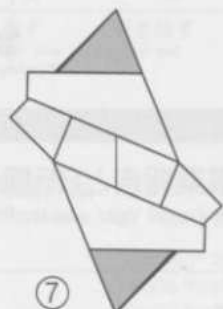
裏返す  
 Turn the model over



⑤

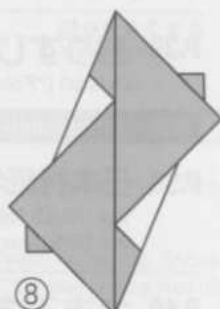


④

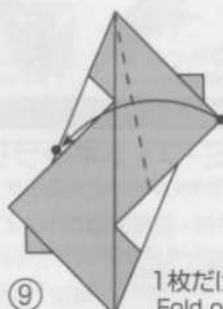


⑦

裏返す  
 Turn the model over

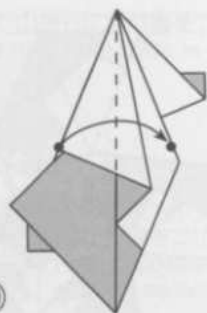


⑧

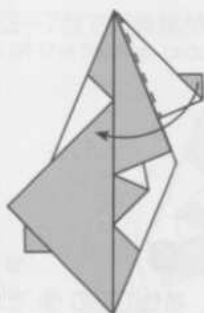


⑨

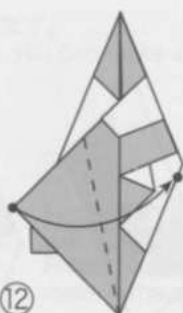
1枚だけ折る。  
 Fold only one layer.



⑩  
1枚だけ折る。  
Fold only one layer.



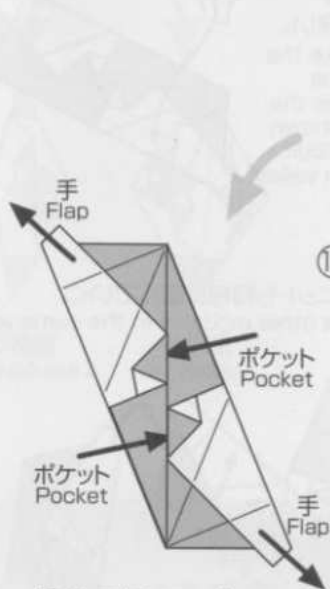
⑪  
フチに沿って折る。  
Fold along the edge.



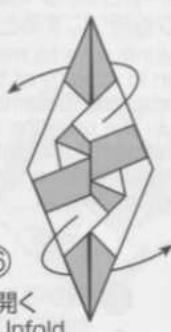
⑫  
1枚だけ折る。  
Fold only one layer.



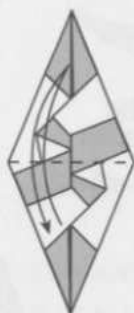
⑬  
1枚だけ折る。  
Fold only one layer.



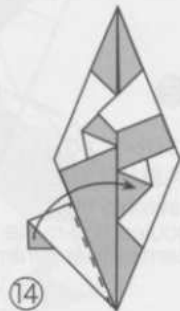
「オシロ」のユニット  
The Oscillo module  
同じものを30個作ります。  
You need 30 modules.



⑯  
開く  
Unfold.



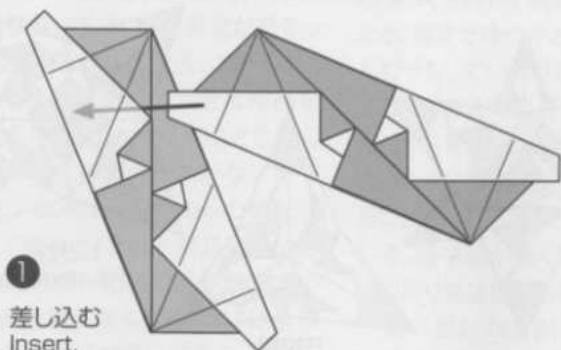
⑮  
ゆるく2つ折りにして、  
曲がり癖をつけておく。  
Fold it loosely in half to  
make it easier to bend.



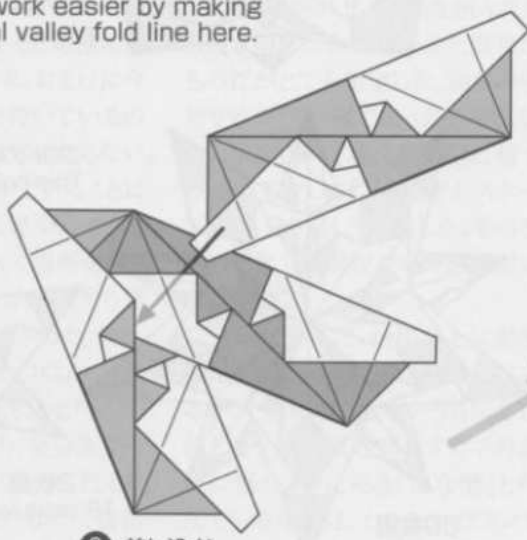
⑭  
フチに沿って折る。  
Fold along the edge.

組み立てが難しい場合は、ここで  
水平に谷折り線をつけておく  
と作業がしやすくなります。  
If assembly is difficult, you can  
make the work easier by making  
a horizontal valley fold line here.

## 組み方 / Assembly



①  
差し込む  
Insert.



②  
差し込む  
Insert.



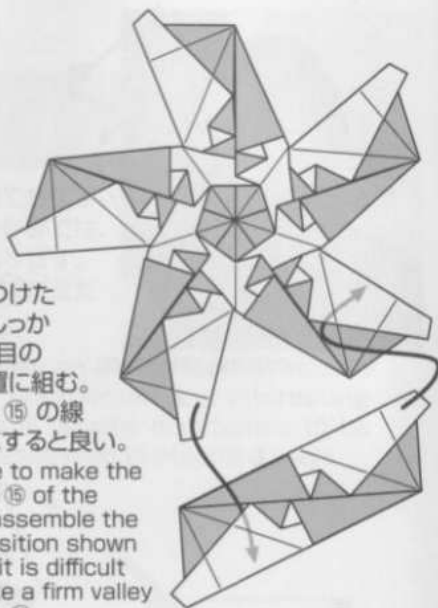


③

ユニット5つで五角錐状に組む。  
Assemble five modules and make a pentagonal pyramid.

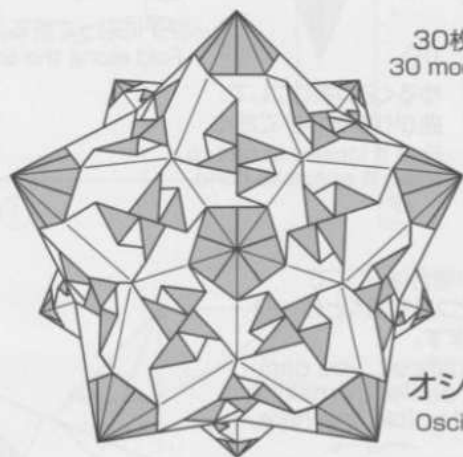
④

折り工程の⑮でつけた折り癖をもう一度しっかりつけてから、6枚目のユニットを図の位置に組む。組みにくい場合は、⑮の線をしっかり谷折りにすると良い。  
After making sure to make the fold again in step ⑮ of the folding process, assemble the 6th unit in the position shown in the diagram. If it is difficult to assemble, make a firm valley fold along the line ⑮.



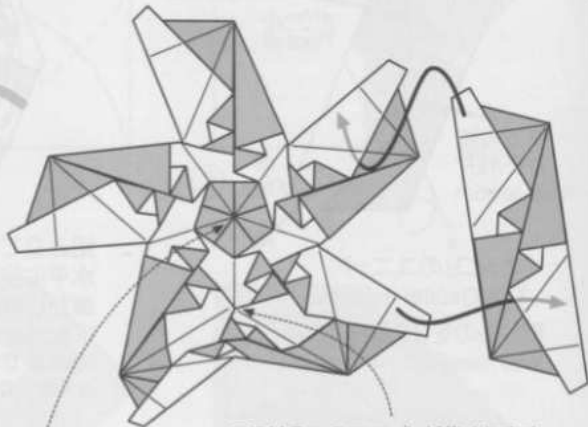
⑤

残りのユニットも同様に組んでいく。  
Insert the other modules in the same way.



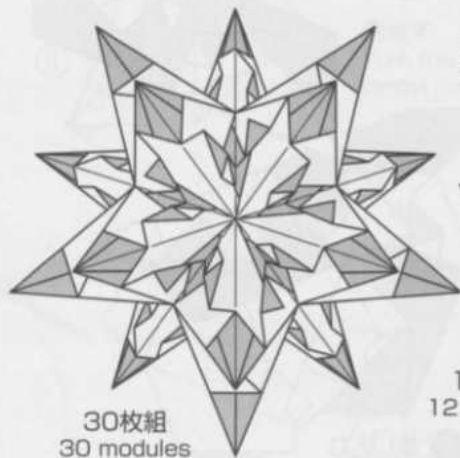
30枚組  
30 modules

オシロ  
Oscillo



ここは3つのユニットが集まります。  
Assemble 3 modules at this point.

このトゲは5つのユニットでできています。  
This point is formed by 5 modules.



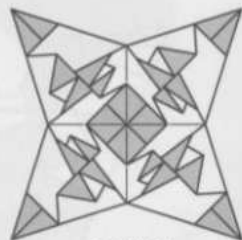
30枚組  
30 modules



12枚組  
12 modules

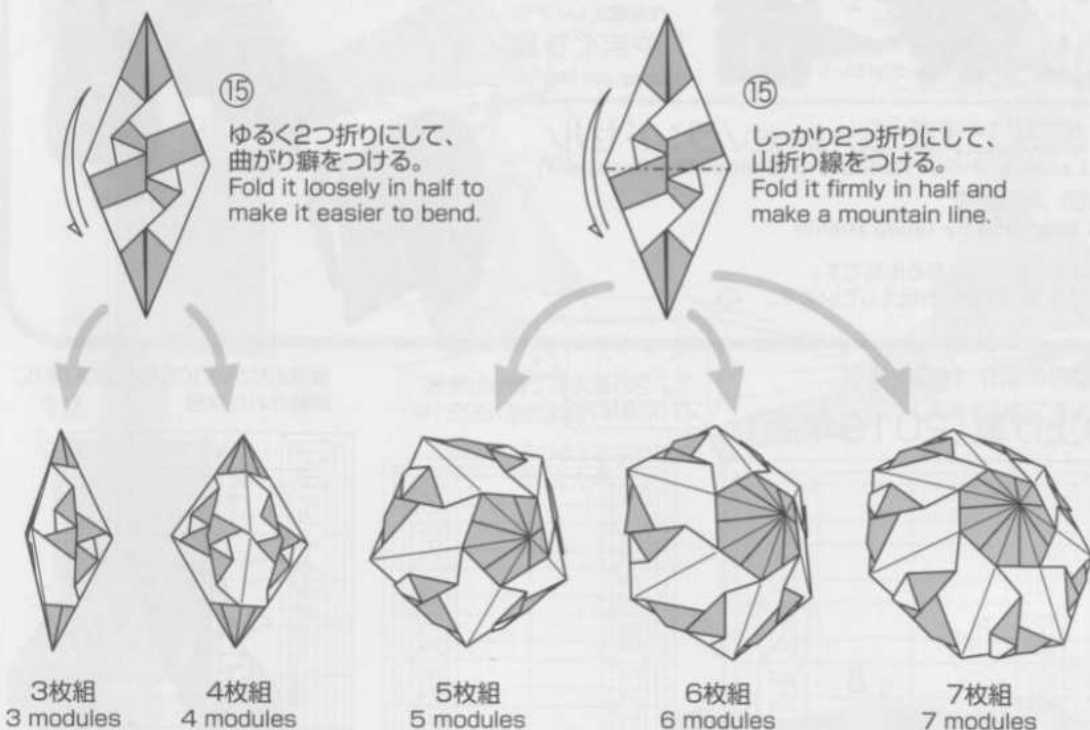


6枚組  
6 modules



12枚組  
12 modules

折り工程の ⑮ で山折りに折り癖をつけると3~7枚で両角錐が作れます。  
If you make the mountain folds in step ⑮ of the folding process, you can make a dipyramid with 3 to 7 pieces.



折り紙の  
周辺

第123回

どら焼きひざ当て

Dorayaki ("Gong Cake")  
Shaped Knee Pad

Origami and  
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

コロナが明けたせいもあり、今年は芸術祭参加をはじめ展覧会が重なって、余裕のない生活を送っている。

いくつかは新作の大きな作品を作る予定だが、いつものことながら作業する広いスペースがないので苦勞する。幅1m長さ10mの紙を想像して欲しい。それを縦長に半分に折る。これが一仕事。2部屋繋げば10+6畳程度になるが、そこには机や何やらの家具が置いてある。苦肉の策で、まず数メートル折ったら端から

そおと丸めて長さを短くし、順に繰り出して、というのを続ける。あっちに行きこっちに戻り、ありやうや皺がよったぞ。何しろ初めのひと折りが大変だ。当たり前だが初めが面積が一番大きい。二折り三折りすると急激に短く小さくなってホッとする。おまけに今は冬で石油ストーブを焚いているので、それも気をつけなくてはならない。結局、火を消して寒い中で折ることになる。春まで待つかとも思うが、そうのんびりもしてられない。場所を借りることも考えたが、行ったり来たり運んだり考えると面倒でやめた。また、大きな作品は床に這いつくばって折ることになる。これを床折りと呼んでいる。膝や腰が痛くなり、全身を使っただの折り紙は年齢もありややこたえる。

昔の話になるが2016年に豊科近代美術館で個展をしたとき、参加型の公開制作を行い、友人たちに手

伝ってもらって大きなスパイラルの柱を数本折った。参加した陶芸家の女性が2日目にお手製のひざ当てを作って持ってきてくださった。丸いフェルト生地の上に綿を挟んだどら焼き型にゴム紐をつけた簡単なものだがとても重宝した。初日の床折りでこりて一夜で縫ったそう。彼女と私を含めて地元勢4名は、皆でひざ当てをして「どら焼きシスターズ」と名乗り楽しく作業した。そのひざ当ては今も現役で時々お世話になっている。

今年は暖冬だ。毎年雪上に動物の足跡を見るのを楽しみにしているが、十分に堪能しないうちに冬が終わりそう。茶の間のすぐ下の斜面に棚のようにある「ひな壇」と呼んでいる花壇は、カモシカのフンでいっぱい。

第123回 編み上げ靴(2019年版)/ランドセル  
Lace-Up Shoes, Randoseru (Schoolkids' Backpack)

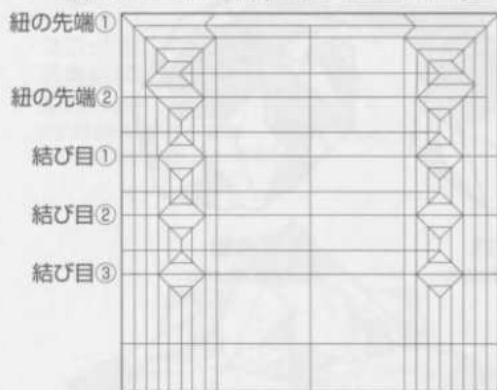
創作・折り図: 津田良夫  
Design & Diagrams by Tsuda Yoshio

津田さんの作品で人気のある作品です。  
折り図コメントをそのままにお伝えしています。

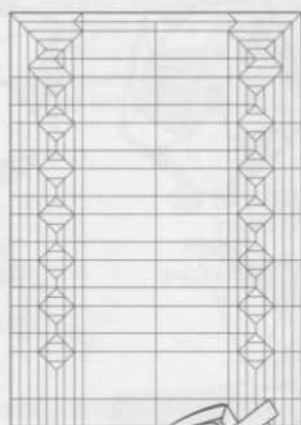


創作時期:原形の創作 1998年

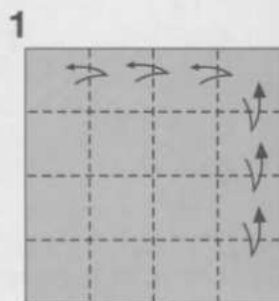
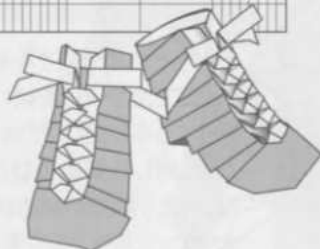
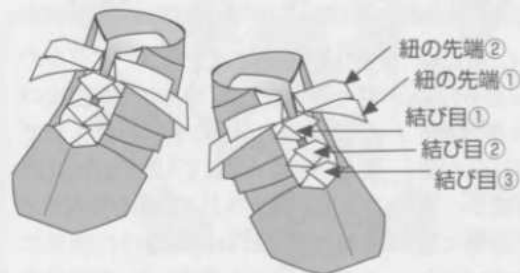
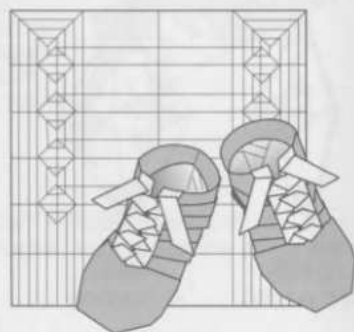
編み上げ靴(2019年版)



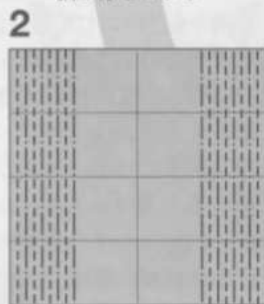
1:√2の長方形で折った原形  
(1998年)の改良版(2021年)



雑誌おりがみ300号(2000年)に  
掲載された原形



縦横に4等分の  
折り線をつける



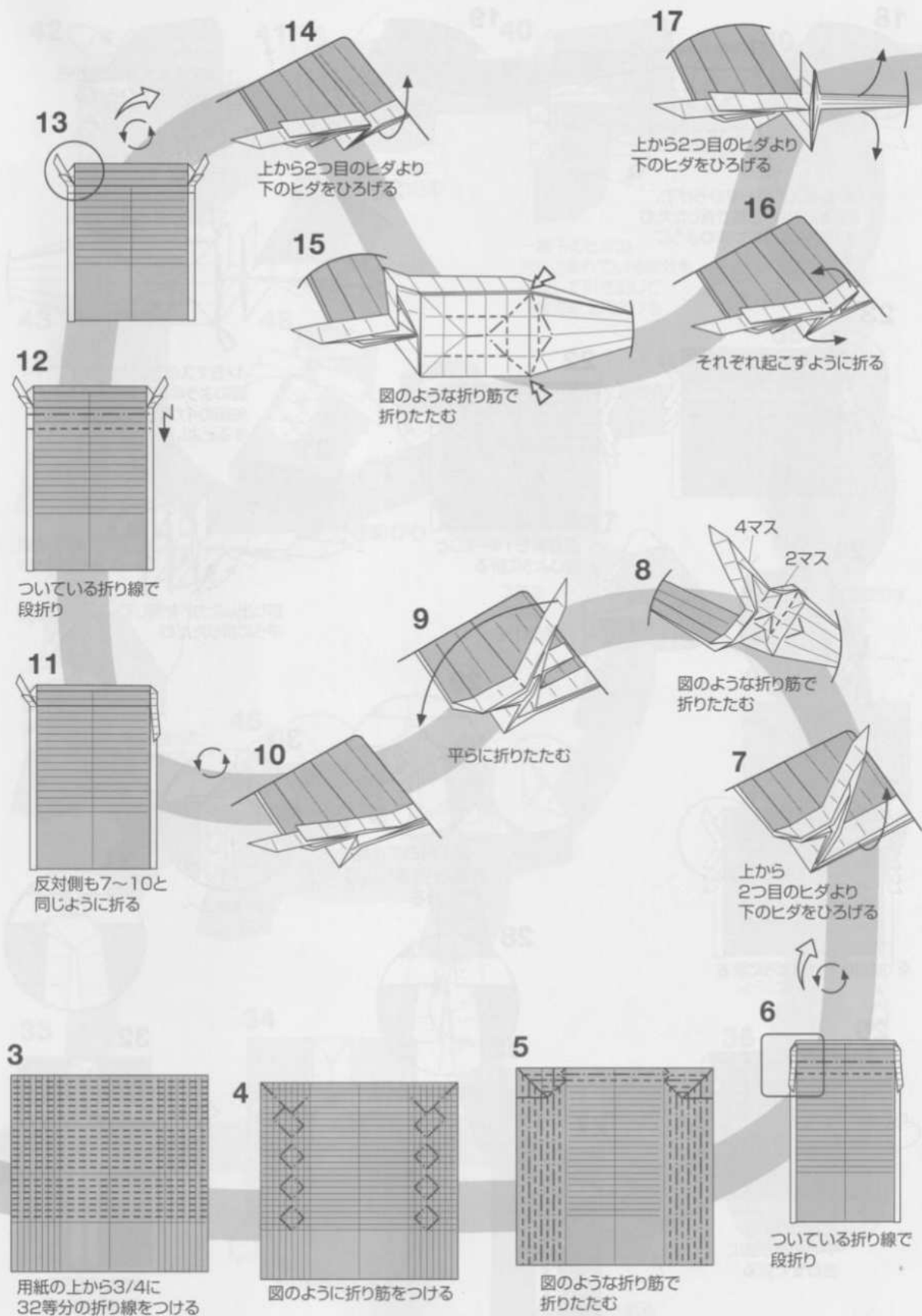
図のようにさらに  
8等分の折り線をつける

この作品を創作した経緯の詳細については雑誌おりがみ300号に述べてあるが、当時の日本折紙協合理事長佐野康博さんからの提案だった。ただの靴ではなくて「編み上げ靴」なので、どうしても靴紐と紐の結び目を折る必要があると考えて、どのように表現したものかとしばらく思索した。良い表現方法が思い浮かばず半年ぐらい経過して半ばあきらめかけていた時、車の運転中にふと思いついたのが折り図28から31に記した方法で、帰宅してすぐに試し折りを始めた記憶がある。雑誌おりがみに掲載されたものを原形として展開図と完成図を示したが、靴紐の最後の結び目が蝶結びのような形になっていない。このことが気にはなったが、そもそも実際の靴と比べると靴紐が太い結び目も大きいので、印象を形にしたモデルにすぎないからと納得し

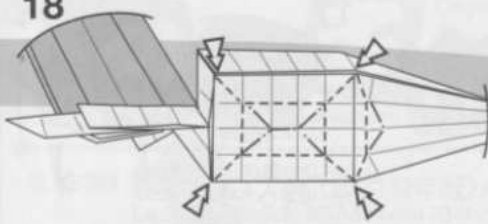
ていた。しかし久しぶりに折ってみると、やはり最後の蝶結びが気になって改良に挑戦してみた。

2019年版は、展開図を比較してみるとわかるが、ほんのわずかな改良を加えたに過ぎない。私は原形よりもそれらしくなったように思い、かなり満足しているのだがどうだろうか。原形を創作した当時、最初は1:√2の長方形用紙(A4サイズ)を使って結び目の数を多くした作品(スニーカー)に仕上げていた。しかし雑誌に投稿する際に、やはり正方形用紙で折る方がよいと考えて原形の折り方に修正した経緯がある。2019年版の蝶結びでスニーカーを折ってみた。展開図と完成図を記したが、折り方は正方形とほぼ同様で紙が長細くなった分だけ結び目の数を増やしている。興味のある方は折ってみてください。



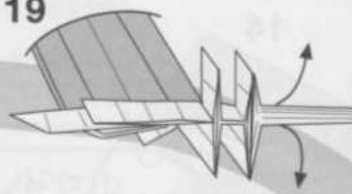


18



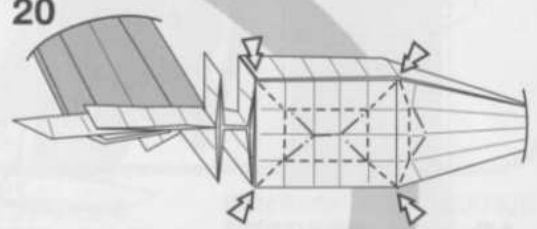
4×5マスの部分をひろげて、  
図のような折り筋で折りたたむ  
矢印の4カ所をつまむように  
するとよい

19



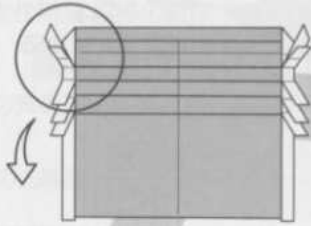
折りたたんだ部分から  
先のヒダをひろげる

20

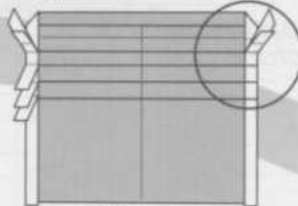


4×5マスの部分をひろげて、  
図のような折り筋で折りたたむ  
矢印の4カ所をつまむように  
するとよい

23

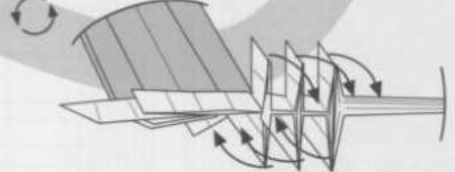


22



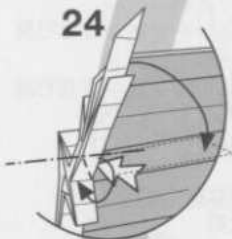
反対側も14~20と  
同じように折る

21



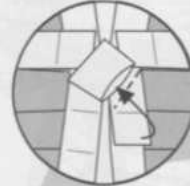
折り出したカドを倒して  
平らに折りたたむ

24



一番上のカドを  
横へ折る

29



一番手前のすき間に  
右のカドを差し込む  
ように折る

30

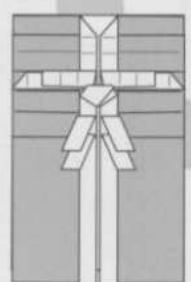


カドを後ろへ  
折る

31

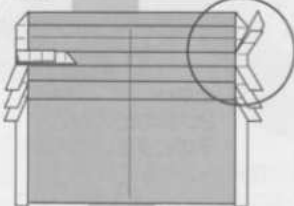


32



残りも28~30と  
同じように折る

25



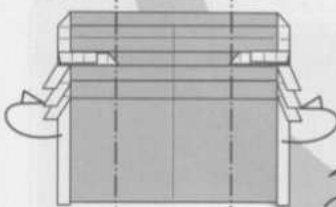
反対側も同じように折る

28



カドを斜めに折る

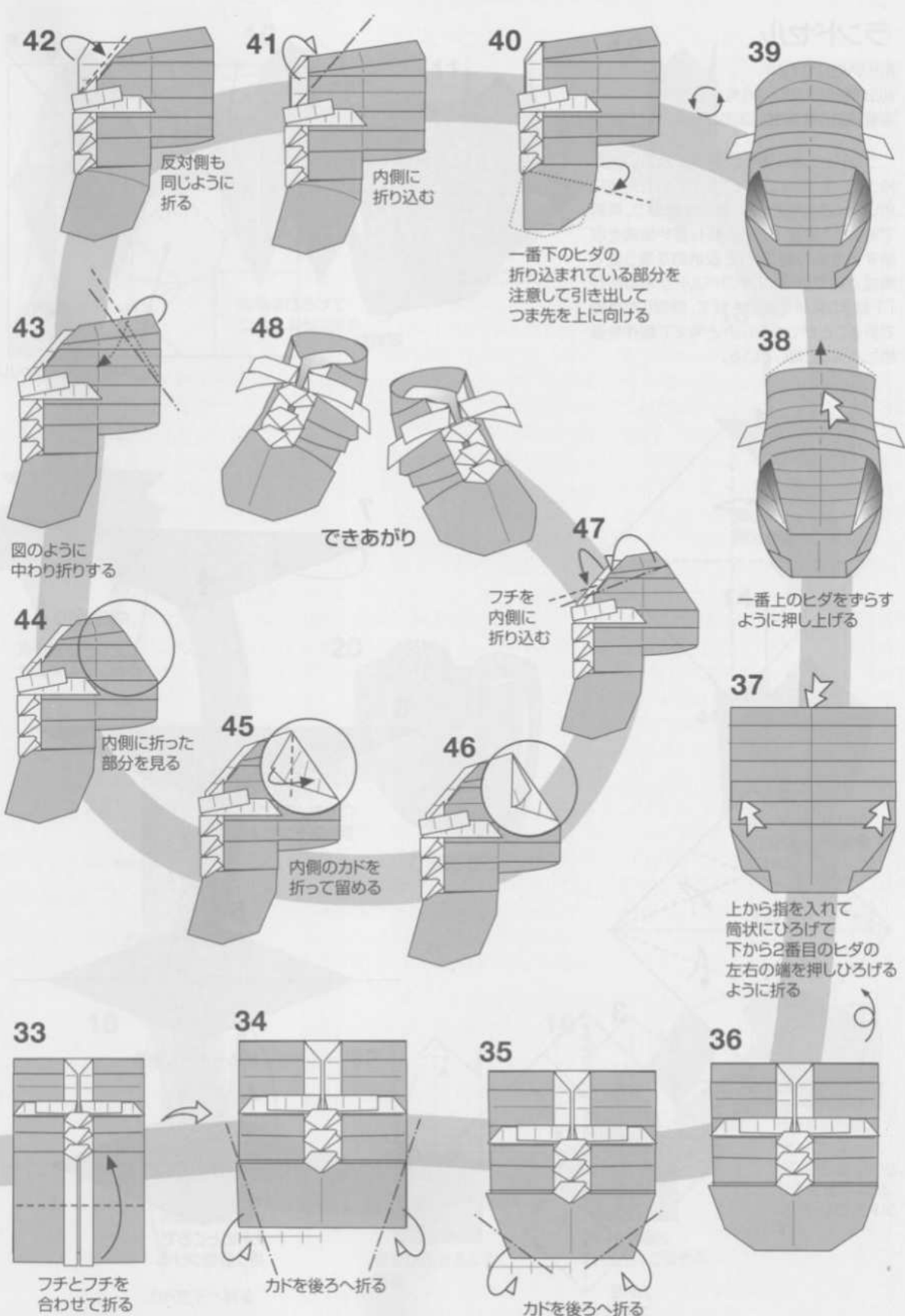
26



左右のフチを  
中心の折り筋に  
合わせて折る

27





42

反対側も  
同じように  
折る

41

内側に  
折り込む

40

一番下のヒダの  
折り込まれている部分を  
注意して引き出して  
つま先を上に向ける

39

43

図のように  
中わり折りする

48

できあがり

38

44

内側に折った  
部分を見る

フチを  
内側に  
折り込む

一番上のヒダをすらす  
るように押し上げる

45

内側のカドを  
折って留める

47

37

上から指を入れて  
筒状にひろげて  
下から2番目のヒダの  
左右の端を押しひろげる  
ように折る

46

33

フチとフチを  
合わせて折る

34

カドを後ろへ折る

35

カドを後ろへ折る

36

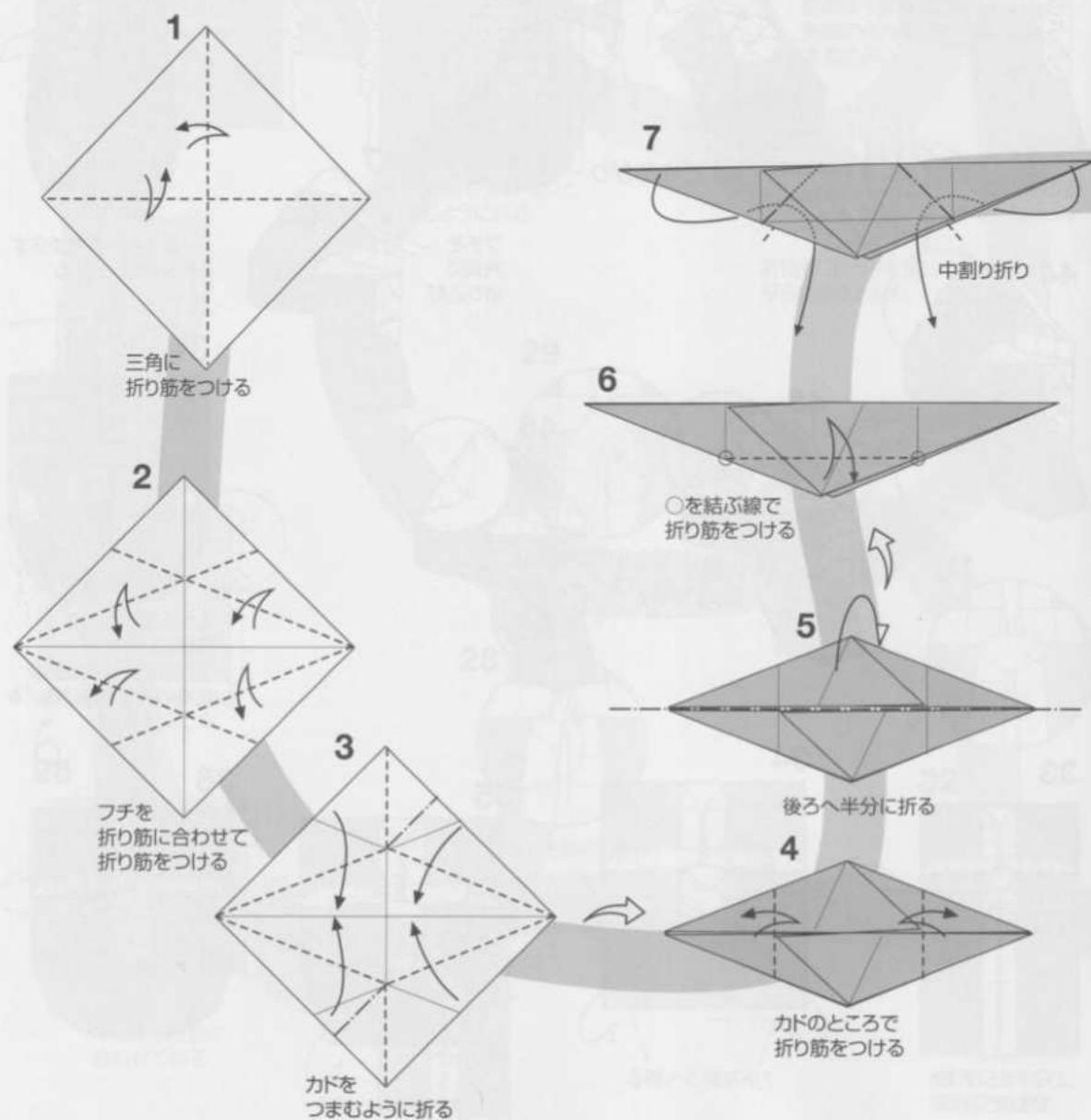
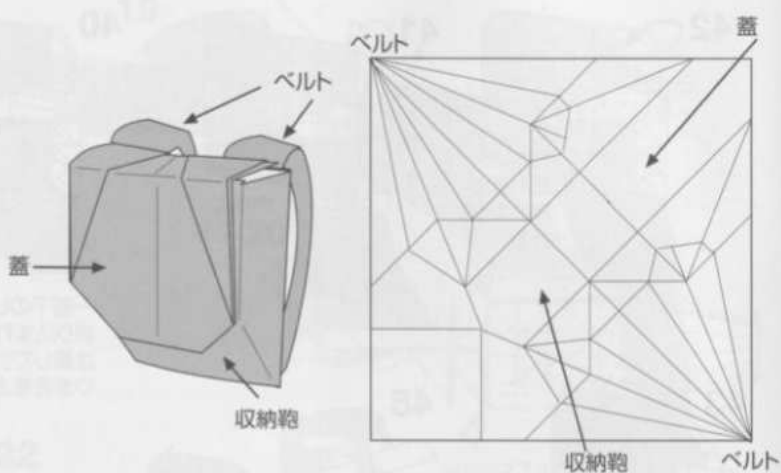
# ランドセル

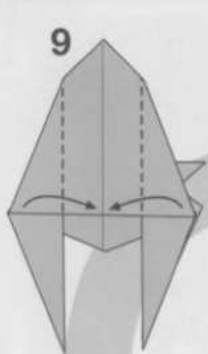
創作時期: 1977年

初出: 雑誌おりがみ 16号(1978)

掲載雑誌&書籍: 雑誌おりがみ 92号(1983)

ランドセルは、誰もが何らかの思い出を持っていて、目をつぶってもその形を簡単に思い描くことができる。構造は簡単で、両肩で背負うためのベルトと教科書や筆箱を収納するための鞆、そして収納鞆を覆う蓋で構成されている。2本のベルトがある点が「下駄」の鼻緒を連想させて、類似した構造で折ることができないかと考えて創作を進めたように記憶している。

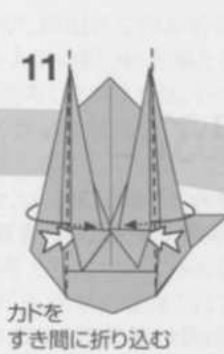




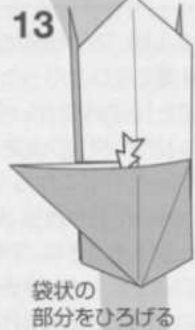
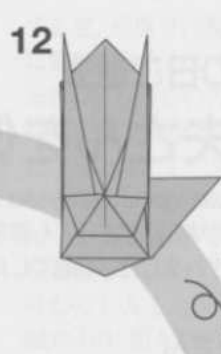
カドを反対側へ折る



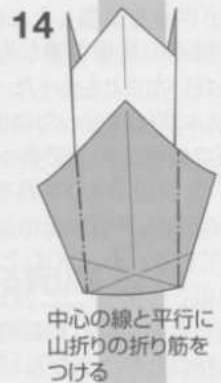
内側をひろげて  
つぶすように折る



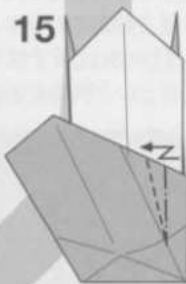
カドを  
すき間に折り込む



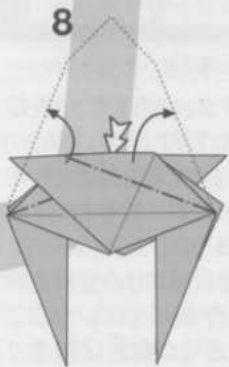
袋状の  
部分をひろげる



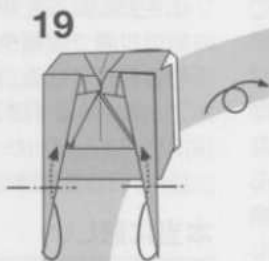
中心の線と平行に  
山折りの折り筋を  
つける



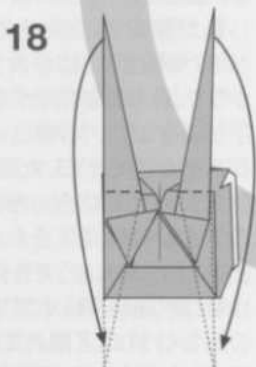
つけた折り筋と  
ついている  
折り線の交点から、  
引き寄せるように  
段折りして立体に  
する



内側をひろげて  
つぶすように折る



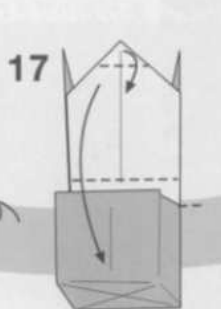
カドの先を後ろの  
すき間に折り込む



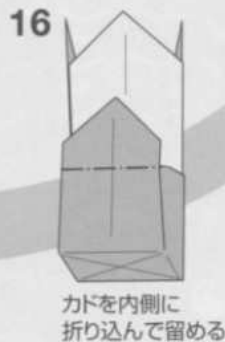
カドを下へ折る



できあがり



蓋をかぶせるように  
折る



カドを内側に  
折り込んで留める



特集:1月30日ご逝去

## 津田良夫さんを偲ぶ

Memories of Tsuda Yoshio (Passed away on Jan. 30)

本会顧問であり、折り紙作家としても著名な津田良夫氏が、1月30日にご逝去されました。70歳でした。

### 追悼:津田良夫さん

津田さんは、ひとの話に熱心に耳を傾けてくださるひとだった。「折り紙で大事なことに意外性ということがありますよね」とか「マンションの8階にいる蚊はいったいどこからくるのでしょうか」など、関心があったり、ふと思ったことを話しかけたときに、丁寧に話につきあっていただいた。津田さんはほとんどユニット折り紙の創作をしていなかったと思うが、ある席でわたしがユニット作品を披露したところ、その比率や構造の詳細を確かめて評価していただいたこともあった。わたしが津田さんに初めて会ったのは、2002年、東京での例会の席であったと記憶している。普段あまり写真を撮ったりしないのだが、手元にそのときの写真が残っている。「あ、このひとがあのお下駄の津田さんなんだ」とうれしくなって、記録しておかなければならないような気がしたのだと思う。「あ、津田さんだ」といえば、東京で Deng 熱の患者が発見されたというニュースがあったさい、代々木公園で蚊を捕獲している研究者という映像が流れたことがあっ

た。それが津田さんで、このときは「あ、津田さんだ」と大きな声を出した。どんなときも、津田さんは落ち着いてにこやかな雰囲気、手慣れたさまで捕虫網を振る姿でもそうだった。人柄がにじみ出たその佇まいとそれを映した折り紙作品を、いま思っている。

日本折紙学会評議員代表:前川 淳

### 完璧な折り紙

津田さんは筆者の2才年上で長崎大学に在職されていた頃は同県民として親しくさせていただいた。津田さんといえば誰もが『下駄』や『蝶』、それに折紙探偵団マガジンの表紙を飾った『蚊』やお髭の優しいお顔を思い浮かべるだろう。

出会いは『下駄』だった。テーマの選択と鶴の基本形からの自然な鼻緒の構成に驚いた。アゲハ蝶がモチーフの『蝶』は見事過ぎる。完璧な折り紙がどういうものかを教わった。折り紙ならではのフォルム。紙の特性を活かした折り工程はリズムカルかつ自然で楽しい。尾状突起の折りがまた素晴らしい。形状を作るために折っているのではなく自然に折りだされている。木の

中にははじめからある形が削りだされた木彫のようである。折りの最後で翅と胴体が紙飛行機のような姿を現す。ホイル紙に頼らずとも形が保たれる。『完璧な折り紙』とよぶにふさわしい名作中の名作である。

津田さんの器用さがまた並外れて



▲笑顔が素敵だった津田さん

いる。コンベンションのとき、中央がだんだん小さくなる『アジサイ折り』のようなものを折るところを見たことがある。爪で丁寧・正確に折るさまは熟練名工のようであった。

普通の紙を折ることの意味を深く理解している作家が少ない今日、70才という早すぎるご逝去は無念である。それだけに素晴らしい作品と折るさまに会えた幸運にあらためて感謝している。

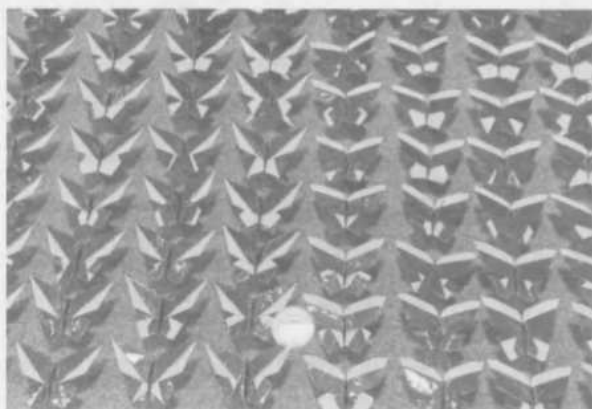
仏さまにお茶を捧げることは筆者の朝の日課で先祖や折り紙の先達に手を合わせている。1月31日朝から、木下一郎さんと折り鶴の作者の間に津田良夫さんが加わった。

日本折紙学会顧問:川崎敏和

### 本当に悲しい

2024年1月31日、例えようのない悲しい知らせを受け取ることとなってしまいました。

私が津田さんのことを知ったのは1982年頃です。私が大学に入ったばかりで、日本折紙協会の折り紙展でお手伝いをしていた時に、一人のご婦人が声をかけてきました。そのご婦人は何年か前に私に会ったと初めは言うのですが、暫くしてそれがどうやら津田さんのことのように分かりました。当時、折り紙を熱心にする大学生はもの珍しく、10ほど離れていますが、津田さんと重ねてお声をかけていただいたのでした。その後、津田さんの作



▲一つとして同じではない、津田氏の蝶の模様のバリエーション

品を誌上や著書で見ることがありましたが、実際にお会いするのは、東京の国立感染症研究所に赴任され、日本折紙学会の評議員にお迎えできた以降のことです。津田さんは、情熱と決意を持ってJOASの未来に多くの提言を下さいました。今、当時のお手紙を読み返して、誠実なお人柄をあらためて感じています。

津田さんの著書『創作折紙をつくる』（大月書店1985年）はとても示唆に富んだものでした。1980年代初頭は、創作折紙に設計の理論が芽生え、技術的な発展の未来にワクワクした時代でした。同書も、創作の新しい技術論が展開されますが、最終章で「折紙の本物の魅力とは？」との問いかけがなされます。私自身もまさに、似た問いかけを自問していたころで、津田さんが同書で示された「ころ」の意味を自分なりに思い巡らせ、問い続けることへの勇気をいただいた気がしていました。残念ながら、津田さんとはこのようなお話をする機会がありませんでした。

津田さんは感染症を媒介する蚊がご専門です。デング熱の話題でテレビ取材を受けられた時の公園で捕虫網を振るう軽やかな姿が今も目に浮かんできます。ご冥福をお祈り致しております。

日本折紙学会評議員：西川誠司

## 大学の先輩

津田さんの作品に初めて出会ったのは、1976年の事です。私が大学に入学して住み始めた下宿に所縁のある方（農学部大学院生）の部屋に遊びに行ったときのことでした。帰りぎわにふと壁に目をやると、折紙で作られた立派な面が飾られており、思わず「先輩も折紙やるんですか？」と尋ねたところ、「俺の友だちが作ったんだよ」との事。なんとそれが津田さんの作品だったのです。津田さんは1976年に岩手大学農学部を卒業されており、私は津田さんと入れ替わる形で1976年に工学部に入学したので、大学では直接お会いすることが出来な

かったのですが、津田さんのお名前は、その時から大学の折紙先輩として、記憶に深く刻みこまれました。その後も津田さんの作品に触れるたびに、その素晴らしさに感動していました。特に、私が社会人になってから購入した津田さんの著書『創作折紙をつくる』で、創作の考え方について多くを学ばせていただき、そこに収録されている「飾りのついた箱」にみられる斬新な発想に、とても感銘をうけたことを今でも覚えています。津田さんとはその後、日本折紙学会の活動でようやく直接お会いすることができ、大学時代の思い出や折紙の事など、色々お話しすることができました。特に津田さんのご専門の蚊については、東京で発生したデング熱対応の時の体験談や、生態系の話、そして折紙の蚊の話などで大いに盛り上がった記憶があります。いつもかざらず屈託のない笑顔でお話してくださる人柄がとても魅力的な先輩でした。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

日本折紙学会顧問：川畑文昭

## 津田さんの思い出

津田良夫さんの作品に出会ったのは、中学生の頃に図書館で見た『創作折紙をつくる』が最初でした。鳥の立体感が好きで、たくさん折った記憶があります。その後10年ほどして大津で開催のOSMEか、東京のコンベンションだったか、記憶があやふやなのですが、初めてご本人にお会いしました。すごい作家さんで雲の上の人だと思っていました。コンベンションでお見かけ



▲「ミニ恐竜」を講習する津田さん（川村）

する度、長身で口髭をたくわえたお姿に緊張したのですが、いざ話してみるととても優しい方で、水田に入って昆虫を探す話などを興味深くお聞きしたことを覚えています。長崎にお住まいと伺ったのもその頃でした。

私が佐賀に移る頃、津田さんは東京に移られ、九州でお会いすることは叶わないかもと思っていましたが、ご縁があり、数々の名作を直接講習して頂く機会に恵まれたことは本当に楽しく幸せなことでした。個人的に好きな「巻き貝」は、リアルさが衝撃的でした。折紙造形の枠を軽々と超えて、新しい世界へ繋がるワクワクを強く感じます。

2015年の東京では、海外の博物館のことや、創作のことなど様々なお話を伺う機会を頂きました。特に創作については1973年の笠原邦彦氏の『創作への折紙 楽しい紙の造形』にとっても影響を受けたんですとおっしゃって、参考文献の情報を送ってくださったことが忘れられぬ思い出となりました。数々の素晴らしい作品とともに、創作する心を頂きました。ありがとうございました。

日本折紙学会評議員：川村みゆき

## 確信のある折り線

津田氏は本業の昆虫・感染症関連のお仕事でご多忙な中で、評議員・顧問としてJOASに貢献してくださいました。気さくで話しやすい雰囲気、若手に対しても真摯にいていねいに対応していた様子が印象に残っています。

『折紙探偵団新聞』51号（1998年8月）の巻頭連載記事にも書いたとおり、私は津田氏の作品「巻き貝」を見て強い衝撃を受けた。蛇腹を「多数のカドを折り出す」ためではなく「デザインの要素」として使用した作品の代表格であると思う。有機的な曲面、空気を含んで周囲にまどわせたような造形。圧倒的な技術力と表現力は、そのほかの立体作品にも共通して現れている。目の前に現存する素材との、静かな格闘の連続からつくりだされたことをイメージさせる繊細な加工。折

## 特集：津田良夫さんを偲ぶ

Memories of Tsuda Yoshio

る場所・分量の基準が図示されていない工程も含めて、津田氏にとっては「その作品ではこうする以外にない、明確な、確信のある折り線」であったのだろう、ということが鮮烈に伝わってくる。これからも生まれ続けるはずだった作品を見ることができないのは非常に残念である。おつかれさまでした。ありがとうございました。

日本折紙学会評議員：北條高史

### 折り紙の将来を考える会

津田さんといえば、いつも日焼けしていて、気がつくとう東南アジアに出張している方というイメージであった。それが少し落ち着いた頃だったのだろうか。2013年～2015年くらいにわたって、山口さん、西川さん、そして当時日本折紙協会の常任理事であった津田さん、重松祥司さんというメンバーで、日本の折り紙界のこれからを考えようという(飲み)会が開かれていた時期があった。あの『創作折り紙をつくる』の著者ということで、私も最初は緊張したが、非常に穏やかでフレンドリーな方であった。

その会の中で、折り紙の著作権について考えたり、web版折紙ミュージアムの構想が出たりした。「折紙アートミュージアム」とそのコンテンツ『秘伝千羽鶴折形』の再現が完成・公開まで実現したのは、勿論、実際にデータを準備しサイトを制作した若手会員

たちの頑張りのおかげではあるが、その裏に当時評議員代表だった津田さんの先導力があったのは確かだ。

津田さんの作品集が出るという噂を聞いていたが、完成を待つことなく亡くなられてしまった。残念でならない。ご冥福をお祈り申し上げます。

次期日本折紙学会評議員：松浦英子

### 優しくて温厚な津田さん

2014年1月にJOASで折紙アートミュージアム運営委員会が発足し、月1回の会議に参加するようになって以降、その議長を務められていた津田さんとお話をさせて頂くようになりました。この会議において津田さんは、設立の経緯・目的(今もミュージアムサイト上でご自身のお言葉が掲載されております)、展示内容、今後の計画について自ら案を出される等、大変精力的に主導され、同年8月、60SME開催に併せて「折紙アートミュージアム」の公開に至りました。この会議で私は議事録を担当していたため毎回出席する必要があったのですが、なかなか都合がつかない時もありました。そんな中、津田さんからは「都合が良い時だけ参加してくれば十分だよ」と優しいお声をかけて頂いたのが今も忘れられません。

ジブリファンの私は、この会議以前から津田さんの折紙作品「王蟲」の大ファンで、折り図化されていた「王蟲」(複眼なし)を沢山折らせて頂きました。ある時、『季刊をる』の津田さんのインタビュー記事において、14個の複眼が折り出された王蟲の写真を見て、必死で「にらみ折り」して完成させたものを、いつかのコンベンション会場で津田さんに見て頂けたのは私にとって良い思い出です。

津田さんには、JOASの



▲津田さんの「王蟲」(『季刊をる』12号 p.24より)

「折紙指導員向け作品情報」においても作品利用に毎年ご協力頂いて参りました。この件で例年、作家の方々向けの事前アンケートの取りまとめを仰せつかっておりますが、津田さんからは驚くことに毎年ほぼ即日ご回答を頂いておりました。直近の2023年度版準備のためのアンケートのご回答が、津田さんとの最後のやり取りになるうとは思いもしませんでした。いつかコンベンション等でお会いできると思っておりましたが、大変残念でなりません。津田さんが安らかな眠りにつかれますよう心よりお祈りいたします。

次期日本折紙学会評議員：小野友彰

### 下駄の津田さん

津田さんは、長年研究活動に追われる傍ら折り紙への情熱も持ち続け、折り紙の世界に関わってこられました。日本折紙学会では、多忙な中で長年評議員として活躍されました。津田さんが評議員代表の年にサイト「折紙アートミュージアム」を開設できたのは、彼の功績の一つでもあります。評議員の定年である65歳を迎えられた2019年度からは、顧問として当会を支えていただきました。そして、本誌には、数多く寄稿していただきました。

津田さんとの出会いは、私が日本折紙協会に在職した初期の頃、1970年代の第一回世界折り紙展が開催されていた時期でした。そこに津田さんの作品が投稿されており、優雅でセンスの良い方だと感じました。津田さんの代表作となった「下駄」が、投稿作品の段ボールに埋もれていたのを発見



▲2014年開催、60SMEの懇親会会場で話し込む津田さん

## 津田良夫氏略歴

1954年 東京に生まれる  
1976年 岩手大学農学部卒業  
1980年 岡山大学大学院農学研究科修了  
1985年 京都大学で農学博士を取得  
1988年 長崎大学、熱帯医学研究所、病害動物学部門勤務  
2002年 長崎大学、熱帯医学研究所、教授、同大で医学博士取得  
2003年 国立感染症研究所、昆虫医科学部、第一室室長  
2006年 4月(第17期)より日本折紙学会評議員  
2011年 第54回日本衛生動物学会賞を受賞  
2014年 4月～翌2015年3月(第17期)日本折紙学会代表  
2017年 国立感染症研究所、昆虫医科学部、室長  
2019年 4月(第30期)より日本折紙学会顧問



▲2014年のコンベンションでOrigamiUSAのWendy会長と

したのは、何を隠そう私です。その頃の折り紙界には作家と呼ばれる方があまりいらっしゃらず、当時のお偉方の目にかなわなかったのか、紹介される機会がなかったのです。無駄がなくかつ的確に描写された形に衝撃を受け、私が折り図を描いて雑誌『おりがみ』誌上で発表されたというのが、あの作品が世に出た経緯です。名作を紹介するきっかけになれたことは、私の誇りでもあります。このことは後に津田さんも感謝してくれました。

津田さんが長崎大学に勤務していた頃には、長崎の折り紙研究家児玉一夫氏による資料『児玉コレクション』を引き取りの時に会いして、助けていただきました。

津田さんは蚊の専門書をいくつか執筆されていますが、折り紙著書は『創作折り紙をつくる』(大月書店、1985年)だけとなってしまいました。その後も数多くの創作作品がありながら、津田さん個人の作品集が存命中

に世に出せなかったのは痛恨の極みです。

3年前にがんを患われたとお聞きしましたが、詳しいところまではお伺いせず、その後は悪い噂を聞かなかったことから、回復へ向かっているものと信じておりました。作品集の電子出版をお約束しましたが、間に合わなかったことを深く後悔しています。私よりも10歳も若いのに、先に逝ってしまったのは残念でなりません。遺作『津田良夫作品集』を発刊できるようにさせていただきます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

日本折紙学会副会長：山口 真

## 父と折り紙の思い出

父は、いつも何かを折っていたように思います。

仕事から帰宅して夕飯ができるまでの間や夕飯後、父は自分の席に座り、新聞の折り込みチラシを使って作品を生み出していました(その試作品

のチラシが父の部屋の段ボール箱の中にいつもありました)。

小さい頃母と妹と折り紙展に行った記憶があります。様々な作品が展示されており、その中に「津田良夫」の名前と作品を見つけた時、「お父さんってすごいんだな」と思いました。

またその時に折り紙教室も開かれており、そこで他の子供達や大人達に丁寧優しく折り方を教えている父を見て驚きました。と、言うのも家で妹や私に折り紙を教えてくれる時の父は、なかなかスパルタだったので。

家には折り紙の本も沢山あり、中には「折ってみたい」と思うものもありました。ですが私はなかなか父に折り方を聞く気になりませんでした。それでも妹は根気強く父の指導についていき、「あじさい」や「ふくろう」といった作品も折れるようになっていました。

大人になるにつれ、昔程自分達が折り紙を折ることは少なくなりましたが、新しい作品ができた時は嬉しそうな

顔で父が作品を持ってくるので、感想を言ったり、たまに注文をつけてしまうこともありました。注文をつけられると少し拗ねたような顔をする父の顔は、よく覚えています。逆に「すごいね!」と褒めたときは、どこか得意気に笑っていました。

本当に父は折り紙が好きでな人だったのだと思います。

津田小羊子

編注：津田さんの作品写真はP.22～23に掲載

### ■『折紙探偵団マガジン』掲載

- 69号 クローズアップ「私にとって折り紙の創作とは?」
- 80号 展開図折りに挑戦!「蚊」
- 88号 展開図折りに挑戦!「ツノゼミ」
- 98号 折り図「コノハズク」
- 102号 おりずじ「構造と機能:動きの大切さ」
- 107号 折紙図書館の本棚から「創作折り紙をつくる」解説:小松英夫
- 114号 折紙図書館の本棚から「雑誌『おりがみ』:創刊号から通巻8号まで」
- 115号 折り図「白雁」
- 121号 折り図「カラス」
- 135号 折り図「ツノゼミ2」
- 145号 ペーパーフォルダーの横顔「津田良夫」
- 146号 おりがみ我楽多市「ペラふくろう」
- 147号 クローズアップ「Web折紙アートミュージアムの開設」
- 184号 折紙図書館の本棚から「おりがみ/動物アルバム」
- 193号 おりがみ我楽多市「クリップ・洗濯ばさみ・十字架」
- 194号 折り図「アジゴク」
- 200号 おりがみ我楽多市「胸キュン」

### ■第21期付刊物掲載:「インコ」展開図

#### ■折紙探偵団コンベンション折り図集掲載作品

- 第10回 モーターボート(絶版)
- 第11回 蜂の斑紋パリエーション(絶版)
- 第12回 折りたたみ椅子(絶版)
- 第14回 なかよしキツネ(絶版)
- 第15回 牛頭(絶版)
- 第16回 ツシマヤマネコ(絶版)
- 第17回 ふくろう2(絶版)
- 第18回 カワセミ
- 第20回 伝言トカゲ
- 第21回 羽毛付フクロウ
- 第22回 ふくろうの状差し
- 第23回 立体ふくろう ver.3(4本指脚付)
- 第24回 セキレイ
- 第25回 クリッパ
- 第27回 体を丸めるアルマジロ
- 第27回 オオクロバエ

▲過去に掲載された津田良夫さん執筆及び関連記事



# 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

峯尾彰太郎

Mineo Shotaro

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<https://origami.jp/Library/>にアクセスしてください。

## 94冊目 『創作折り紙をつくる』津田良夫 著

“Designing Origami Models” by Tsuda Yoshio

### はじめに

今回ご紹介するのは、1985年9月に大月書店から発行された津田良夫著『創作折り紙をつくる』（画像1）です。はじめに、本書を紹介するにあたって、今年1月に逝去された津田氏へ哀悼の意を捧げるとともに生前のご活躍に敬意を表します。また、今回本書の紹介を私に担当させてくださった編集部の皆様にも感謝申し上げます。私にとって、本書は創作折り紙を始める最初のきっかけになった一冊でもあり、特別な存在です。本書に影響を受けた数いる折り紙作家の1人として、本書の魅力が少しでも多くの方に伝われば幸いです。

さて、ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、本コーナーにおける本書の紹介は、107号での小松英夫氏による紹介以来2回目となります。小松氏の紹介では技法面に焦点を当て、創作法の発展の歴史にも触れながらの読み応えのある解説となっています。お持ちの方は是非そちらもお読みください。本稿では、実際に本書を読んで創作折り紙を始めた私の体験も交えつつ、まさに折り紙を創作しようとする者に寄り添って書かれた本書の特殊性についてご紹介できればと思います。

### 私と本書との出会い

私が本書と出会ったのは小学校の図書室でした。当時小学校低学年だった私は折り紙にハマりたてで、書籍やインターネットから手当たり次第に折り図を探して折り紙を折っていました。そんなある日、図書室で見つけた古めかしい折り紙本が本書でした。手に取るや否や、表紙を飾っていた鳥を

モチーフにした作品の造形の美しさに衝撃を受けたのを覚えています（画像2）。それ以来、幾度となく借りてきては穴が空くほど読み込み、以前にも増して折り紙にハマることになります。それまで既存作品のアレンジ程度しかできなかった私ですが、本書を通じて本格的に創作を始めました。その後、小学校卒業を機にオークションサイトで中古品を購入し、現在まで手元に置いています。まさに私にとってはバイブル的存在です。本書から学んだ創作方法や造形センスは現在の私の作品にも強く影響を及ぼし続けているところがあると感じます。

### 本書の構成

- ・折り紙入門 折り図を理解する
- ・創作折り紙への招待 創作方法の詳述
- ・創作折り紙の実際

本書は3章からなっており、読み進めていくと、折り紙初心者でも創作ができるようになることを目標とした構成となっています。作例写真、折り図だけでなく、基礎的な折り方の解説から、創作方法の詳述、創作時のエピソードまで津田氏の親しみやすい文章とともに楽しめる一冊となっています。

### 本書における創作方法

第2章「創作折り紙への招待」では、具体的な3つの創作プロセスとともに、改良の過程、別モチーフへの応用など、実践的な内容で折り紙の創作方法について解説されています。この章の初めに津田氏は「それでは創作の理論とは……と考えると、これがそれほどはっきりしていません。ですが、かつては試行錯誤のくりかえしにすぎなかったものが、何人かの作家の経

験をとおして、いくぶん筋道だったものになってきているのが現状のようです。」(p30)と述べています。本書の発行年も加味すると、現代に広く使われているような折り紙創作の方法論や設計手法などが体系立てられる以前だったのが推察できます。最初に紹介されているのは、「魚 基本形の選択と変形」と題された魚の創作方法です。前章で紹介された基本形からの応用という手法が取られており、モチーフのイメージを単純化して単純な折り方で見立てをるところから始めます（画像3）。そうして、「単純な作品の良さは、それが改良心をくすぐる点にある」(p31)とした上で、胸びれの位置などイメージに近づけるための改良を行っていきます。改良前の造形と作りたいイメージを比較した上で、イメージを再現するのに必要な基本形を探っていきます。こうして魚の基本形を用いて、えら、胸びれ、尾びれを再現した魚が完成します。さらにこの魚から応用して金魚、アンコウなど別のモチーフに展開していく様はとても実践的です。

実際、現在でも私は本書の内容に従って、基本形から試行錯誤を経て作品を創作するプロセスをとることが多いです。これは、創作を始めたばかりの人にとってはかなり有効な方法ではないかと思います。その後、同様のプロセスで「木 ユニットの利用」、「カエル 基本形の組み合わせ」というように多様な創作方法を提示しています。カエルの創作においては、小松氏の紹介でも取り上げられていた、指を折り出すための領域付加の創作方法が用いられているなど、かなりマニアッ



○峯尾彰太朗 (みねお・しょうたろう) = 折り紙作家。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。多摩美術大学美術学部絵画学科日本画専攻在籍。



くな内容となっています。(画像4、5)

### 創作例の紹介

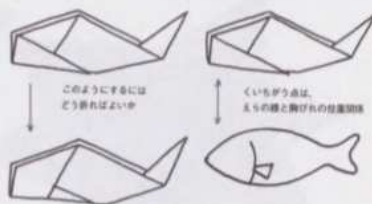
第3章「創作折り紙の実際」では、実際に津田氏が創作した様々な作品について、創作時のエピソードとともに折り図が掲載されています。こちらの章でも、第2章と同様、作品の改良、応用プロセスが紹介されており、「二枚貝」、「鳥五種」、「恐竜類」など、卓越した造形センスによる作品が並びます。本章でのエピソードは、実際創作する者にとって非常に親近感湧く内容となっております読んでいて楽しいです。

### 本書の目的

「子どもとつくる」シリーズの14冊目として出版された本書ですが、いわゆる折り方本とは性質が全く違います。先述の通り、折り図の読み方など基礎的な解説から始めているにもかかわらず、創作方法、創作例、改良プロセスなどの詳細な記述に至る構成になっている点は特異的です。また、創作時のエピソードをここまでの分量で載せている書籍は他に見たこと

がありません。「あとがき」にて津田氏が「折り紙の最大のおもしろさは、自分の心にあるものを創作する点にある」と述べていることから分かるように、本書最大の目的は、単に折り紙を読者に折ってもらうことではなく、読者に創作の喜びを伝えることにあるといえるでしょう。本書のように折り図以外の内容も充実している折り紙本としては、前川淳著『本格折り紙』、神谷哲史著『神谷流 創作折り紙に挑戦!』、Robert J. Lang 著『Origami Design Secrets』、川畑文昭著『創作折り紙 発想と技法』などが挙げられますが、ここまで実践的な創作方法に焦点を当てて書かれた折り紙本は他にはないのではないのでしょうか。

以上、今回は津田氏の唯一の折り紙本である『創作折り紙をつくる』を紹介させていただきました。発行から40年近く経っていることもあり、入手できる機会も少なくなっているとは思いますが、見かけた際は是非手に取ってみてください。



▲画像3



▲画像4



▲画像5

# 創作折り紙をつくる

津田良夫

シリーズ14  
子どもとつくる  
大月書店



▲画像1



▲画像2

## 今号の折り図・展開図掲載作品より 解説：前川 淳 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Maekawa Jun (P.20-21)

「オシロ」作：川村みゆき (P.4)

Oscillo: Kawamura Miyuki (P.4)

■ユニット折り紙には、かたちの面白さに加えて模様面の面白さがある。模様は、あらかじめつくって組む場合と、組んだときに出る場合がある。この作品は後者だが、じっさいに折ってみての発見で生まれる場合も多く、そこもたのしい。



「編み上げ靴(2019年版)」「ランドセル」作：津田良夫 (P.8)

Lace-Up Shoes, Randoseru (Schoolkids' Backpack): Tsuda Yoshio (P.8)

■「編み上げ靴」は、蛇腹折りの技法のコツを学ぶものとしても最適の作品である。コメントを読むと、作品完成後にも常に改良の思いが続いていて、これはその改良版である。「ランドセル」は、魚の基本形からの作品で、そのモチーフに優しい父親の視線も感じる。





「蚊」作：津田良夫(P.27)

Mosquito  
Tsuda Yoshio (P.27)

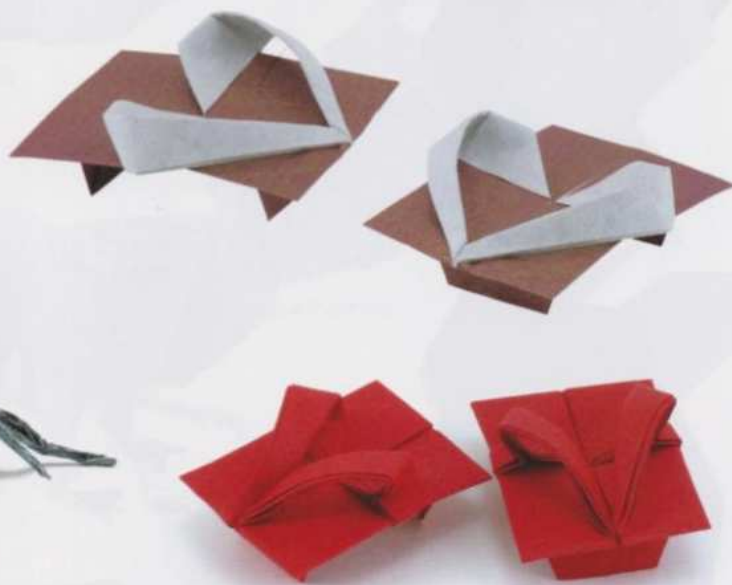
■専門家ならではの視点が手本のような作品だ。後ろ脚をあげるなど、ポーズを整えることが、蚊らしさを表現するのに欠かせないというのが、津田さんの言である。



「下駄」作：津田良夫(P.37)

Geta (Japanese Wooden Clog)  
Tsuda Yoshio (P.37)

■折り紙作品として下駄をつくらうという発想にまず意外性があるが、それが鶴の基本形から折られるということにも意外性がある。無理なくしっかりとまとまり、たくさん折りたくなるなど、折り紙のひとつの理想形ともいえる傑作である。



「ワシミズク」作：中村康佑 (P.26)

Eagle Owl: Nakamura Kosuke (P.26)

■顔を用紙の中央部において、袋状(フクロウだけに)の構造としたことで、無理なく全方位からの立体造形とすることに成功している。展開図紹介のページで、概要を示す第1段階、ディテールを加えた第2段階としているのも興味深い。



# 津田良夫折り紙作品誌上展示

Origami Works by Tsuda Yoshio



立体ふくろう(脚付)



白鳥



白雁



アゲハチョウ



立体ふくろう(羽毛・脚付)



セキレイ



すずめ



インコ



カラス



オーム



ダイコクコガネ



ダンゴムシ



ツノゼミ



体を丸めるアルマジロ



アリジゴク



ツノゼミ3



ナンバンダイコクコガネ



伝言トカゲ



オオクロバエ



イボイモリ



十字架



クリップ



広口の壺



二枚貝



洗濯ばさみ



# 各地の折紙探偵団例会より

From the Regional Meeting

## 関西例会 Kansai Group



Kobashi Kiyotaka



Nakamura Kosuke



Hashimoto Haruka



Sasaki Sogo



Nakamura Kosuke



Fukuroi Kazuki

## 東海例会 Tokai Group



Muraki Atsunori



Muraki Atsunori



Muraki Atsunori



Kato Hitomi



Tominaga Kazuhiro



Kozonoi Shinsuke

東京例会  
Tokyo Group



Mitsuda Shigeru



Ouchi Koji



Hojoyo Takashi



Mitsuda Shigeru



Mitsuda Shigeru



Yoshimura Masaki

会員特別配付資料と別冊  
ご送付のお知らせ

これまで、正会員の皆様には1年に1度、「会員特別配付資料」をお送りしてきましたが、今期からは、それに加えて「別冊 折紙探偵団マガジン」も年に2冊お送りすることになりました。

今期はすでに「別冊」を11月と1月にお送り済みで、「特別配付資料」は本号に同封されました。来期(35期)からは7月、11月に「別冊」が、3月には「特

別配付資料」と、年間3回にわたって発送される予定です。

マガジン購読のみの方はこの機会に、購読から会員へのアップグレードを検討してみませんか？ また、お知り合いの方にもぜひ日本折紙学会の活動と入会方法を紹介していただきますようお願い申し上げます。

※配付物の折り図は、作者の皆様のご協力により、掲載が実現しています。



Kamiya Satoshi

Imai Yudai

特別配付資料  
掲載作品

Mitsuda Shigeru

別冊 折紙探偵団  
MAGAZINE

正会員向け冊子



日本折紙学会・JOAS

11月に配付された別冊の表紙

別冊 折紙探偵団  
MAGAZINE

203号正会員向け冊子



日本折紙学会・JOAS

1月に配付された別冊の表紙

日本折紙学会  
第34期会員特別配付資料

The 34th Year Annual Special Issue for the Regular JOAS Members



日本折紙学会・JOAS

3月に配付の期末特別配付資料の表紙



## 第150回

## ワシミミズク

Eagle Owl

中村康佑

Nakamura Kosuke

Created: 2022/07

Paper Size: 90x90cm

Height: 22cm

ワシミミズクは「羽角(うかく)」という頭の飾り羽が特徴的なフクロウのなかまです。背中のシルエットにもこだわったので、360度鑑賞できるように設計できたかなと思っています。

カド配置は、中央の内部カドが目や羽角、第1、第3象限が足と翼、第2象限が背中から尾まで、第4象限が嘴(くちばし)や顔盤(目の周りの羽毛)や腹です。第1、第4象限(あるいは第3、第4象限)の間の辺カドは小雨覆(しょうあまおおい、ニワトリでいう手羽先のあたり)、第1、第2象限(あるいは第2、第3象限)の間の辺カドは風切羽(翼の先端)になります。

構造としては、対角線に沿って帯領域があり、第1、第3象限は鶴の基本形、第2、第4象限は体を立体的にするための袋のイメージです。

展開図は、左下半分が第1段階、右上半分が第2段階になっています。図1に基準の折り方を示します。星印が帯領域の幅になっています。

第1段階の展開図を折る手順を述べます。1. 両対角に基準線をもとにした段折りを仕込ませて第1象限と第3象限で鶴の基本形を折ります。2. 鶴の背中にあたるカドを整理します。3. 中央で目や羽角のカドを折り出します。4. 第2象限で背中や尾羽を折ります。5. 第4象限で嘴、顔盤、腹を折ります。1段階目の腹の模様を折る際は裏側で

重なりが干渉しないように注意してください。

6. 小雨覆、足を折ります。

第2段階の展開図は平坦に畳めません。第4象限の腹の模様、第1象限中央にある羽の模様を仕上げしてから立体させます。立体化させるとき、頭は作例を参考に直方体になるよう

にします。左右の翼は風切羽を背中側に引き寄せるように折ります。仕上げの際、顔盤の両側を凹ませ、胸回りを盛り上げるように上げると良いでしょう。展開図に描ききれていない折りが多く、糊付けは必須です。

紙について、作例はコニーラップを使用しましたが、大きく丈夫な紙がおすすです。

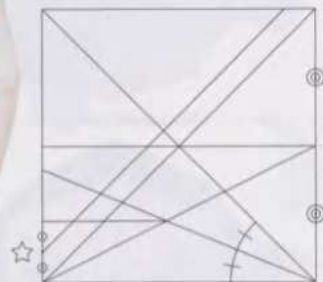
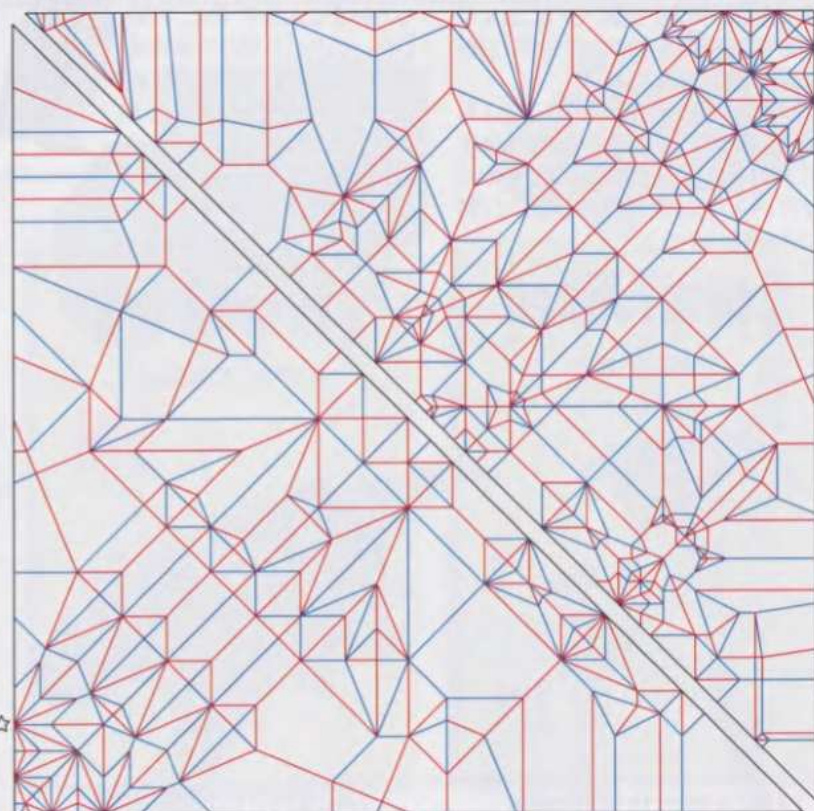


図1



# 蚊/Mosquito

創作・折図:津田良夫/by Tsuda Yoshio

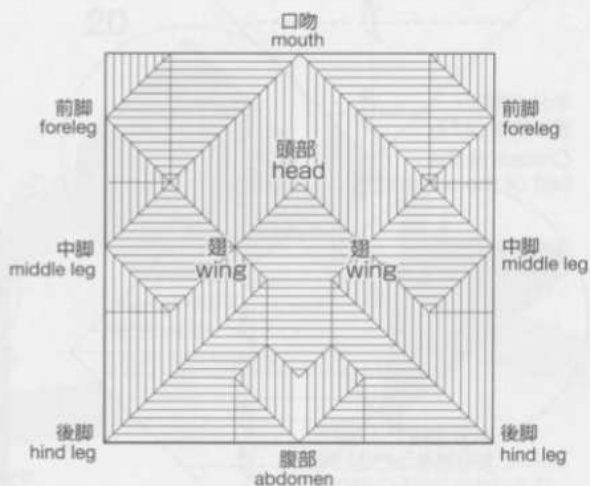
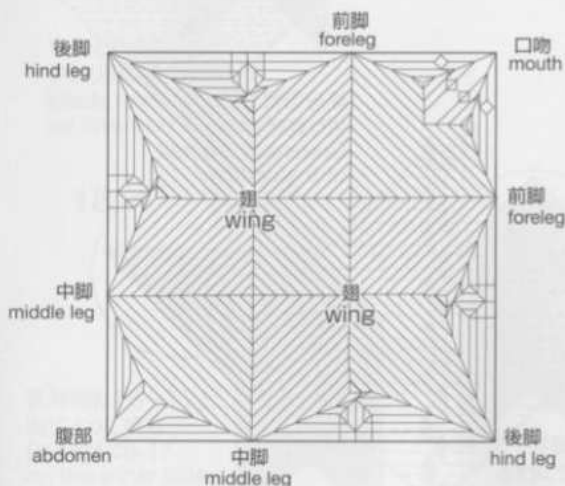
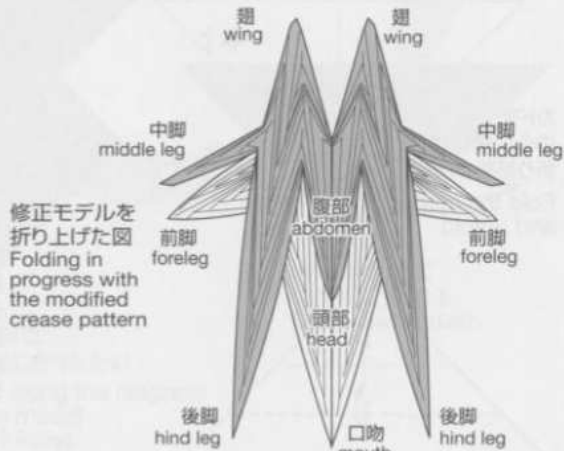
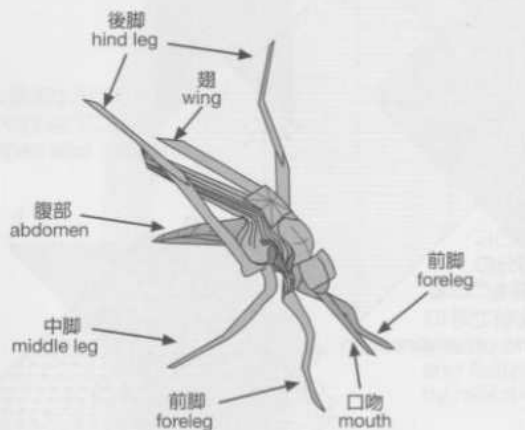
創作: 2003年

初出:折紙探偵団マガジン80号(2003)展開図



蚊は私の研究対象で、日本や東南アジアで様々な種類の蚊を調査研究してきた。蚊の形態的特徴を考えると、折り紙で蚊を折ることには少なくとも2つの問題がある。ひとつは、体が小さいこと、もうひとつは脚、特に後脚がとても長いことである。翅の長さを基準にすると2.5倍から3倍の長さがある。この問題を解決するために、用紙の大部分を脚に割り振り、中央部に残った用紙で他の部分を折るという方針で創作を行った。用紙は対角線方向に使用し、後脚は長くするために対角線に沿って配置し、腹部と頭部は紙の重なりを少なくするために用紙の角に配置した。いくつか問題はあるが、一応それらしい形にまとめることができた。

このモデルで一番気になるのは、後脚が前脚と中脚の間に位置することだ。この点を折り図77番から80番で修正しているが、ちょっと気に入らない。この問題を解決することを検討してきたが、今のところ右に示した展開図で必要なパーツを折ることができている。脚が出る位置も前脚、中脚、後脚の順になるように修正してある。ただし、頭部を折るための部分にはかなりの用紙が使われているので、この部分はもう少し工夫が必要で、触角を折り出すことなども検討したらよいのではないかと思っている。

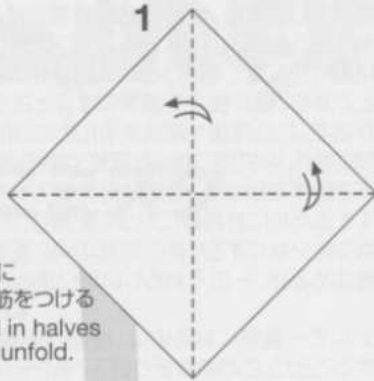


後脚の配置を修正したモデルの展開図

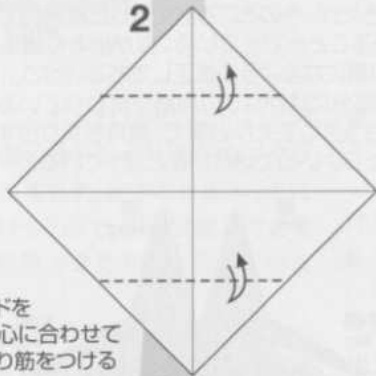
The crease pattern of the model with the allocation of hind legs corrected



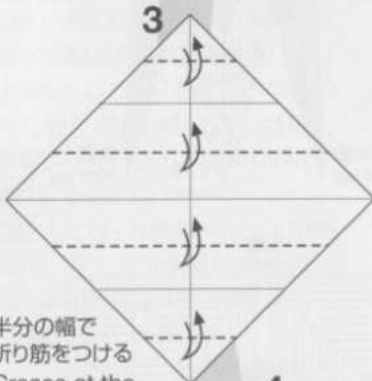
# 蚊/Mosquito



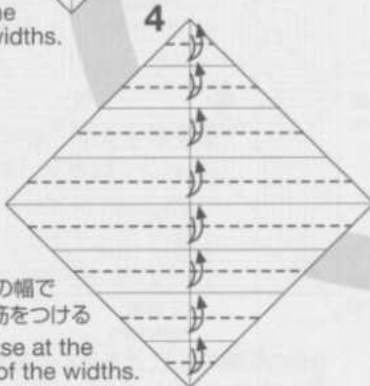
三角に  
折り筋をつける  
Fold in halves  
and unfold.



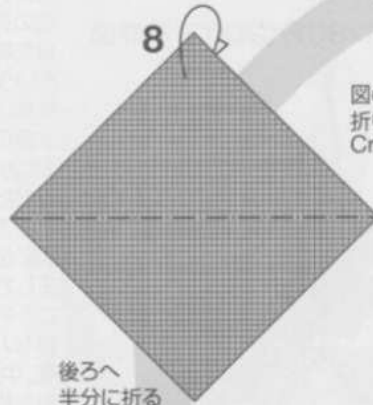
カドを  
中心に合わせて  
折り筋をつける  
Fold the corners to the center  
and unfold.



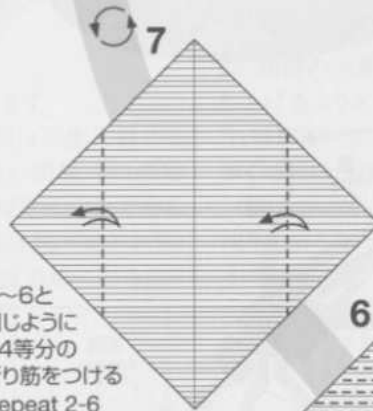
半分の幅で  
折り筋をつける  
Crease at the half  
of the widths.



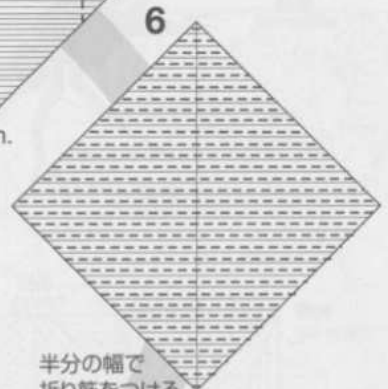
半分の幅で  
折り筋をつける  
Crease at the half  
of the widths.



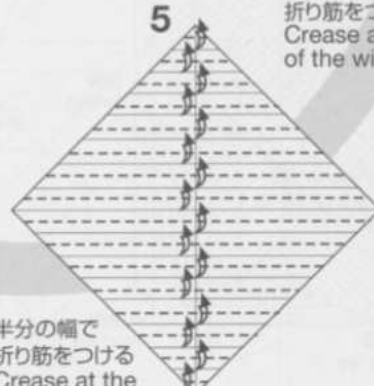
後ろへ  
半分に折る  
Fold in half behind.



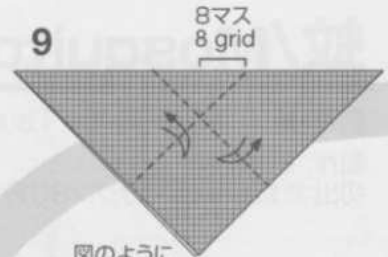
2~6と  
同じように  
64等分の  
折り筋をつける  
Repeat 2-6  
on the other direction.



半分の幅で  
折り筋をつける  
Crease at the half  
of the widths.

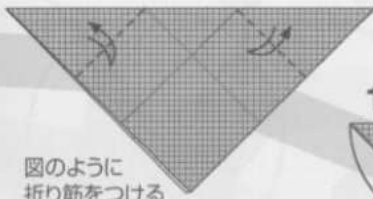


半分の幅で  
折り筋をつける  
Crease at the half  
of the widths.



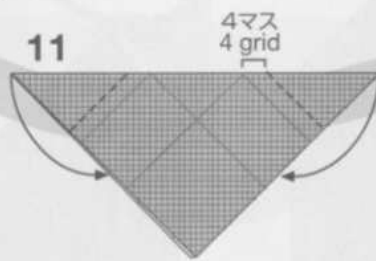
8マス  
8 grid  
図のように  
折り筋をつける  
Crease as shown.

10

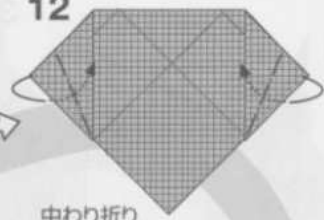


図のように  
折り筋をつける  
Crease as shown.

11

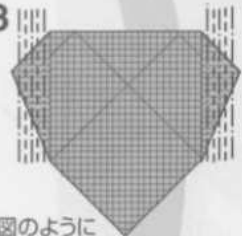


12



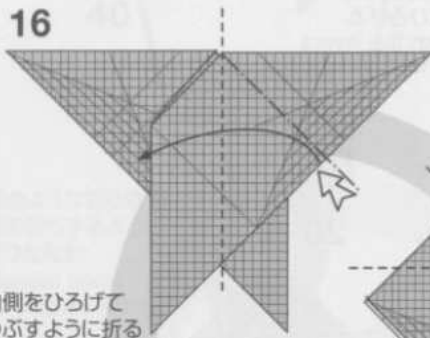
中わり折り  
Inside reverse fold.

13



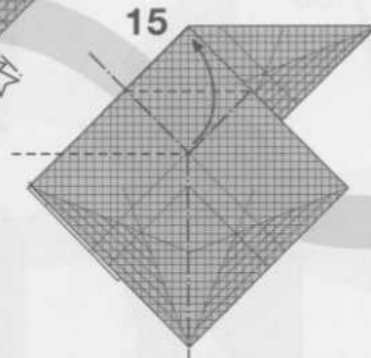
図のように  
折り筋をつけてから  
11の形に戻す  
Re-crease as shown  
and unfold to 11.

16



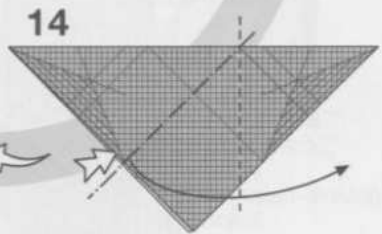
内側をひろげて  
つぶすように折る  
Open and squash.

15



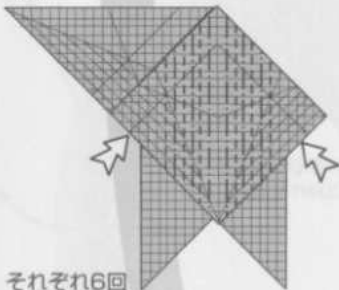
ついている折り筋で  
カドをつまむように折りたたむ  
Mountain fold along the diagonal  
and flatten the model  
by rabbit-ear folding.

14



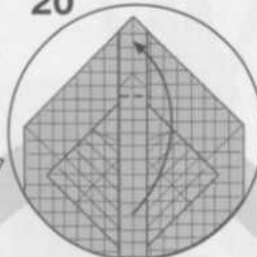
内側をひろげて  
つぶすように折る  
Open and squash.

17



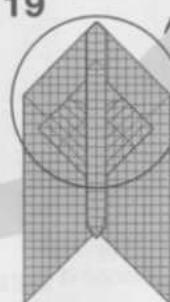
それぞれ6回  
中わり折りをくりかえす  
Inside reverse fold  
six times on each side.

20

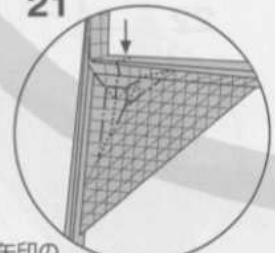


かるくひろげて  
横から見る  
Open the layers.

19

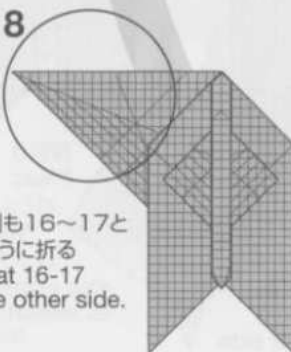


21



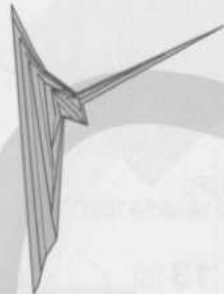
矢印の  
部分をへこませるようにして  
折り線のように折りたたむ  
Pushed the arrowed  
crease down and  
pleat fold as shown.

18



反対側も16~17と  
同じように折る  
Repeat 16-17  
on the other side.

30



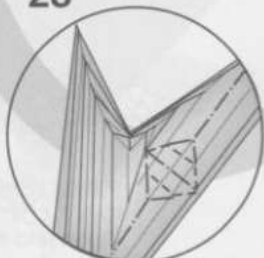
途中の図  
In progress...

29



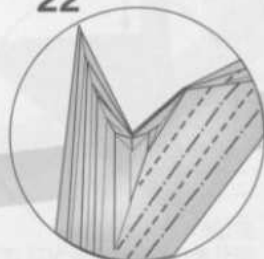
全体を見た図  
A bird's-eye view  
from the side.

28



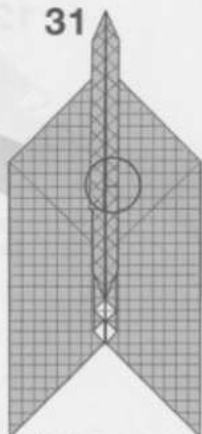
図のような折り筋で  
折りたたむ  
Assemble with the  
creases as shown.

22



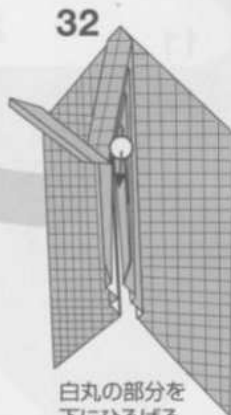
折り線のようにたたむ  
Assemble using the  
existing creases.

31



右側も27~29と  
同じように折る  
Repeat 27-29  
on the other side.

32



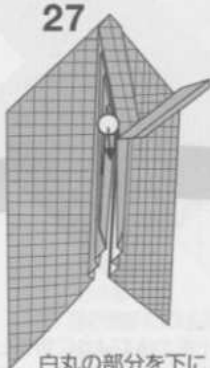
白丸の部分  
下にひろげる  
Open the layers  
at the marked point.

33



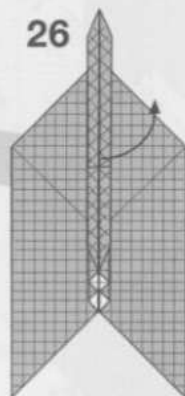
図のような折り筋で  
折りたたむ  
Assemble with the  
creases as shown.

27



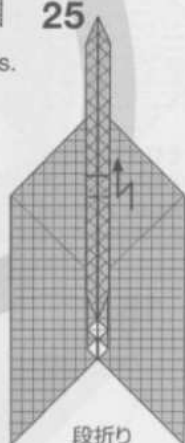
白丸の部分  
下にひろげる  
Open the layers  
at the marked point.

26



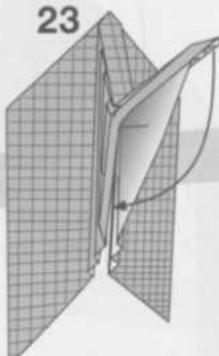
かるくひろげる  
Open the layers.

25



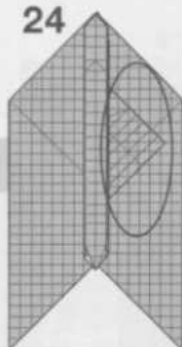
段折り  
Pleat.

23



平らに折りたたむ  
Flatten the model.

24



反対側も20~23と  
同じように折る  
Repeat 20-23  
on the other side.

34



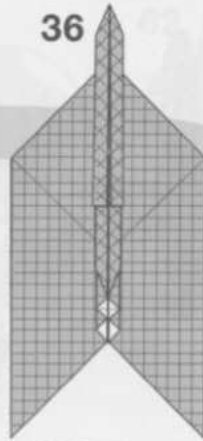
全体を見た図  
A bird's-eye view  
from the side.

35



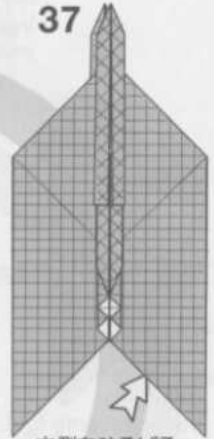
途中の図  
In progress...

36



反対側も19~35と  
同じように折る  
Repeat 19-35  
on the other side.

37



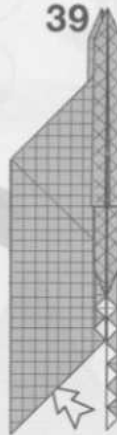
内側をひろげる  
Open the layer.

40



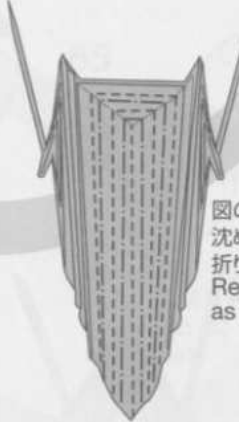
図のような折り筋で  
沈め折りするように  
折りたたむ  
Repeat open  
sinking as shown.

39



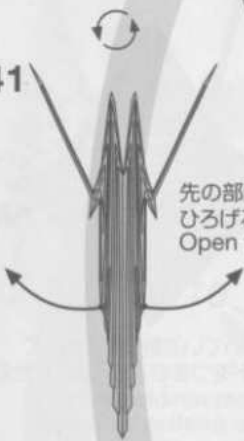
内側をひろげる  
Open the layer.

38



図のような折り筋で  
沈め折りするように  
折りたたむ  
Repeat open-  
sinking as shown.

41



先の部分を  
ひろげる  
Open the layers.

44



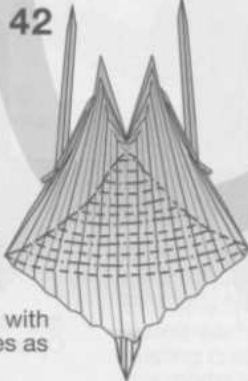
反対側も  
41~43と  
同じように折る  
Repeat 41-43  
on the other side.

43



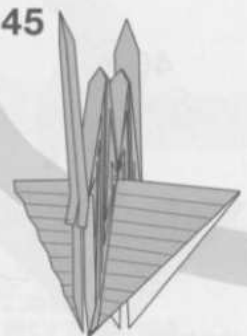
途中の図  
In progress...

42



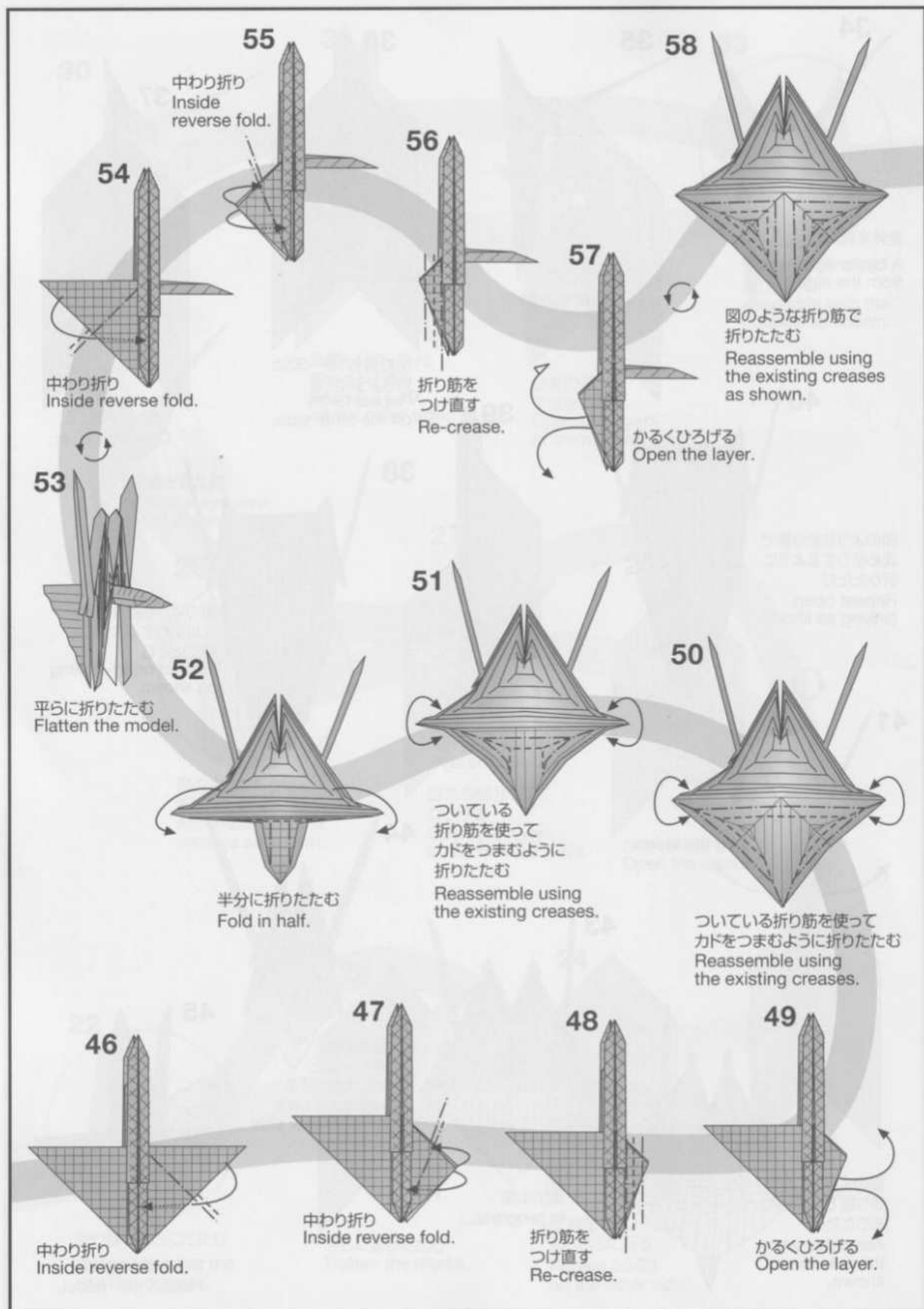
図のような  
折り筋で  
折りたたむ  
Assemble with  
the creases as  
shown.

45

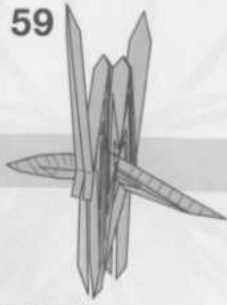


平らに折りたたむ  
Flatten the model.



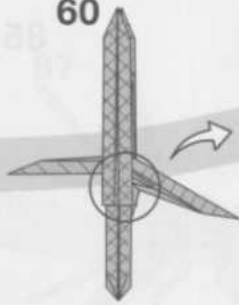


59

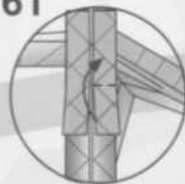


右側が頭部、  
左側は腹部になる  
The left flap will be the head,  
and the right flap will be  
the abdomen.

60

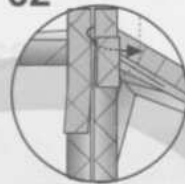


61



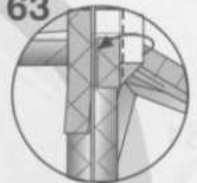
カドを上へ折る  
Fold the flap up.

62



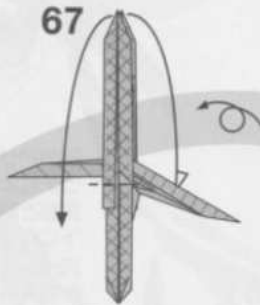
手前の1枚を  
横に引き出す  
Pull out the  
top layer.

63



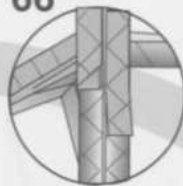
手前の部分に  
かぶせるように折る  
Fold the edge  
over the top layer.

67

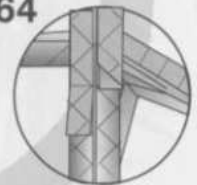


カドを下へ折る  
Fold the corners  
down.

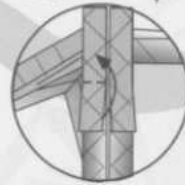
66



64

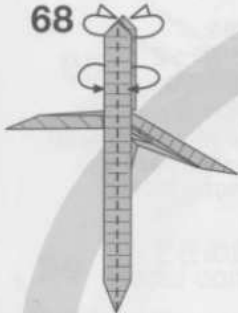


65



61~64と  
同じように折る  
Repeat 61-64  
on this side.

68



それぞれ反対側へ折る  
Fold the layers  
to the other sides.

69



後ろへ  
曲げるように折る  
Fold the corners  
to behind.

70



71



内側の紙を  
引き出す  
Pull out the inner layer.

72



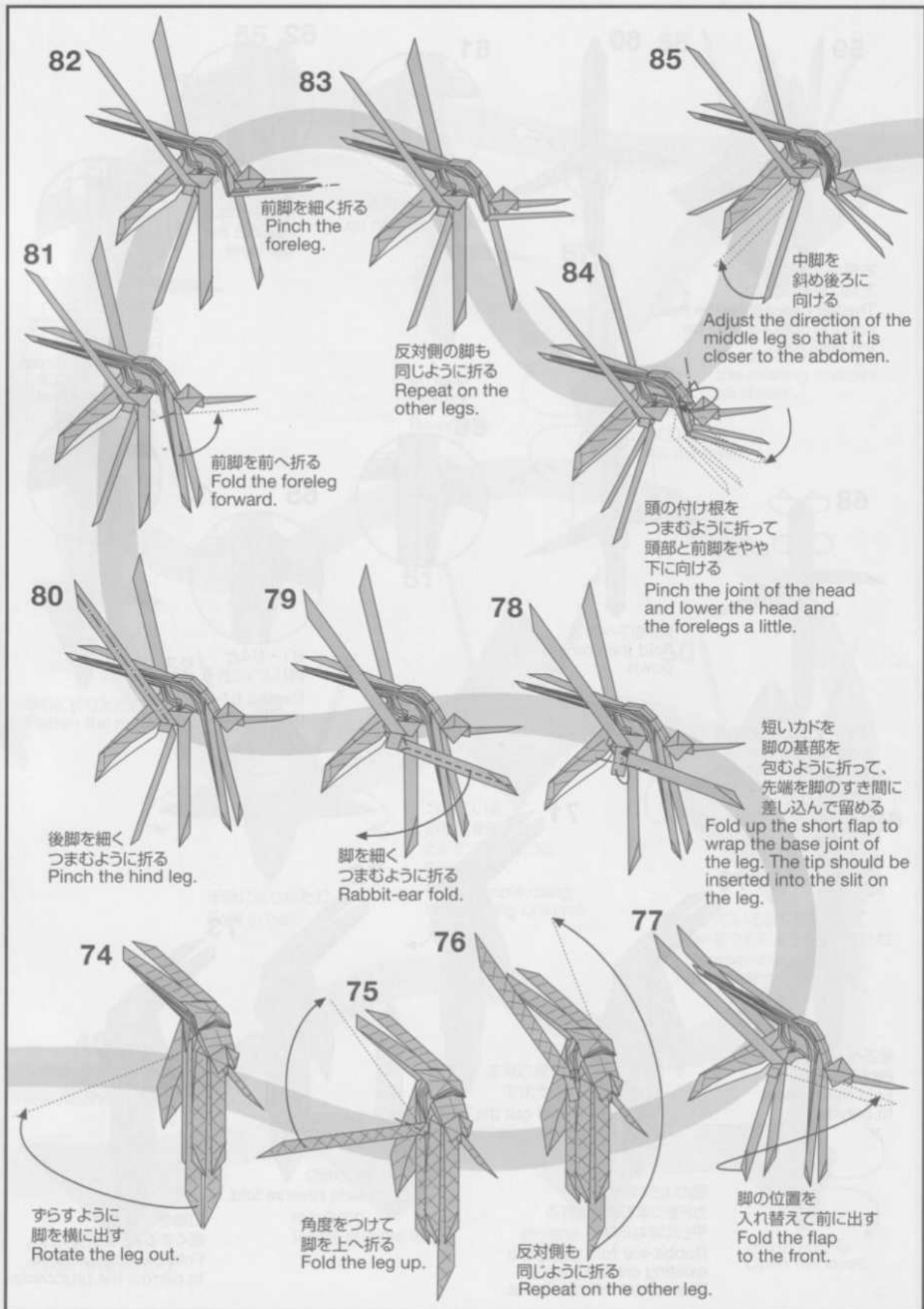
中わり折り  
Inside reverse fold.

73

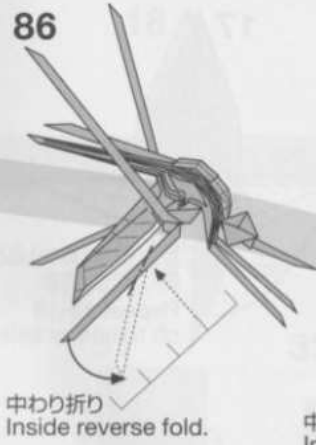


口吻を  
細くするように折る  
Fold the edges inside  
to narrow the proboscis.

図のような折り筋で  
カドをつまむように折る  
平らにはならない  
Rabbit-ear fold using the  
existing crease lines.  
The model will not lie flat.



86



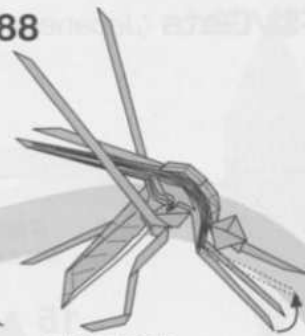
中わり折り  
Inside reverse fold.

87



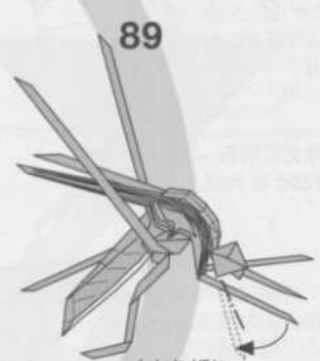
中わり折り  
Inside reverse fold.

88



前脚をずらす  
Adjust the angle  
of the foreleg.

89



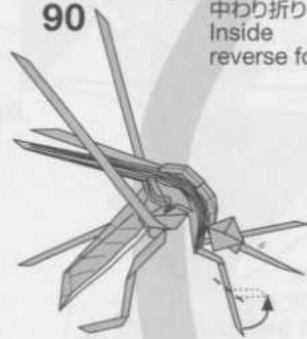
中わり折り  
Inside  
reverse fold.

96



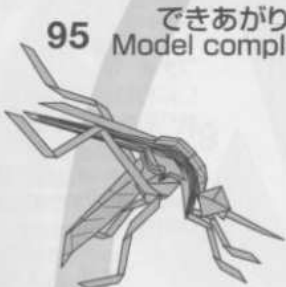
できあがり  
Model completed.

90



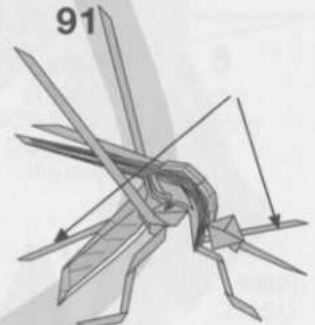
先端をひねるように折る  
Fold the tip.

95



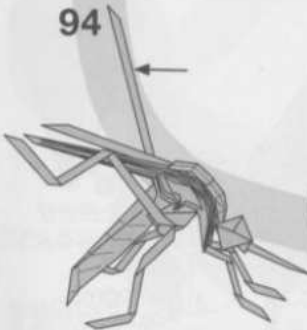
脚の先端部を細くし、  
形を整える  
Shape the legs.

91



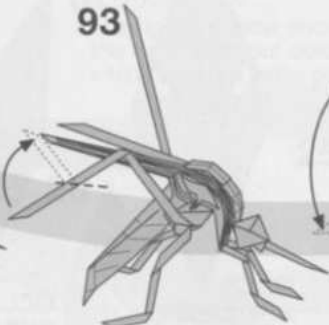
反対側の中脚と前脚も  
85~90と同じように  
折る  
Repeat 85-90  
on the other legs.

94



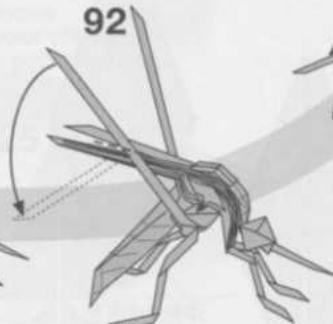
反対側の後脚も  
92~93と同じように折る  
Repeat 92-93  
on the other hind leg.

93



先端を上へ折る  
Fold the tip up.

92

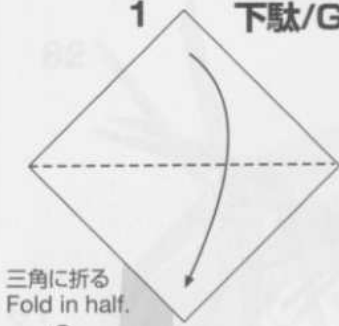


先端を下へ折る  
Fold the corner down.

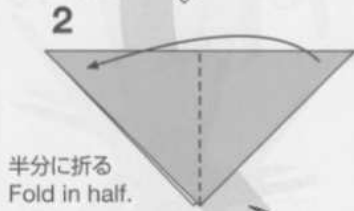


# 1 下駄/Geta (Japanese Wooden Clog)

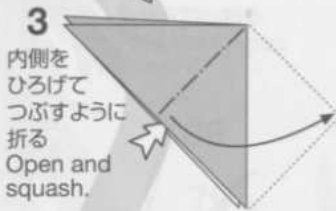
88



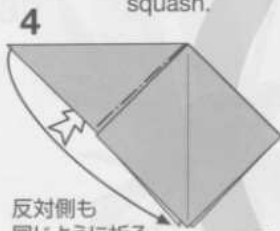
三角に折る  
Fold in half.



半分に折る  
Fold in half.



3 内側を  
ひろげて  
つぶすように  
折る  
Open and  
squash.



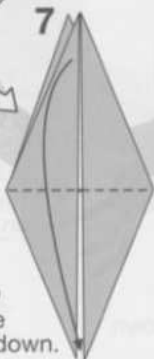
4 反対側も  
同じように折る  
Repeat behind.



5 内側を  
ひろげて  
つぶすように折る  
Petal fold.



6 内側を  
ひろげて  
つぶすように  
折る  
Petal fold.



7 カドを  
下へ折る  
Fold the  
corner down.



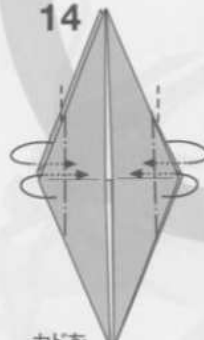
8 中央のカドを  
起こすように折る  
Raise the corner.



16 手前の1枚を  
裏返すように折る  
Wrap the layer  
inside out.



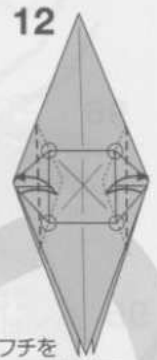
15 カドを横へ折る  
Fold the corner  
to the side.



14 カドを  
内側へ折る  
Fold the corners  
to inside.



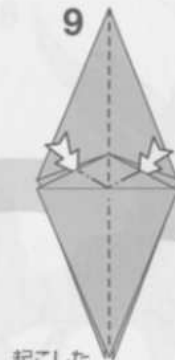
13 カドを  
上へ折る  
Fold the  
corner up.



12 フチを  
○に合わせて  
折り筋をつける  
Fold so that  
the outer edges  
match the inner  
corners.



11 途中の図  
つぶした部分が  
正方形になるように  
調整する  
In progress.  
Adjust so that a  
square is made at  
the center.

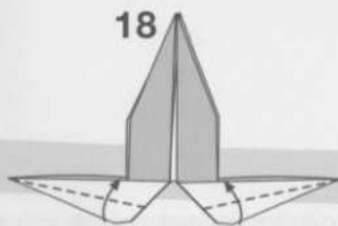


9 起こした  
カドのすき間を  
ひろげるように折る  
Open the layer...



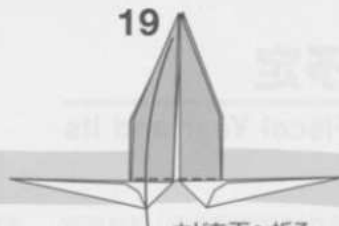
10 起こした  
カドをひろげて  
つぶすように折る  
Spread sink the  
center corner.

18



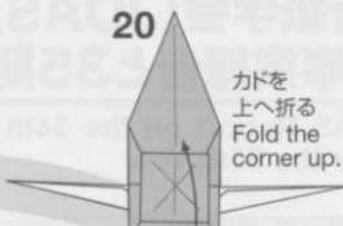
カドを細く折る  
Narrow the flaps.

19



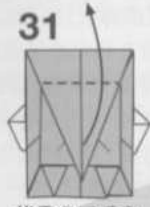
カドを下へ折る  
Fold down the top flap.

20



カドを上へ折る  
Fold the corner up.

31



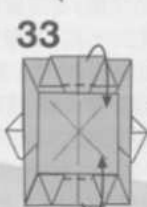
後ろのフチの  
ところで折る  
Fold along  
the edge  
behind.

32



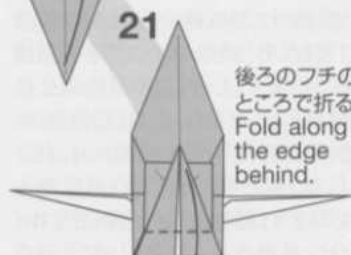
カドを  
中央の正方形の  
後ろのすき間に  
折り込む  
Fold the corner  
to the center  
into the slit.

33



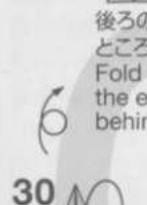
下駄の歯を  
立てるように  
折る  
Raise the  
edge.

21



後ろのフチの  
ところで折る  
Fold along  
the edge  
behind.

30



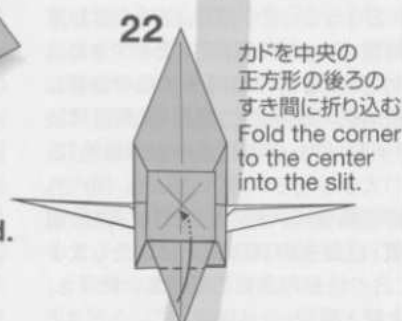
ついている  
折り筋で  
後ろへ折る  
Fold behind  
along the  
crease.

34



できあがり  
Model completed.

22



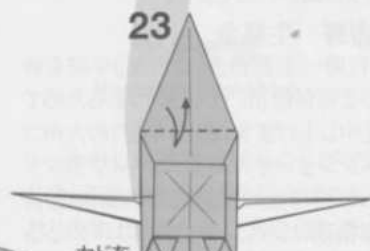
カドを中央の  
正方形の後ろの  
すき間に折り込む  
Fold the corner  
to the center  
into the slit.

29

反対側も25~28と  
同じように折る  
Repeat 25-28  
on the other  
side.

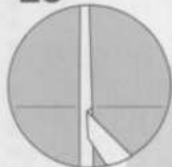


23



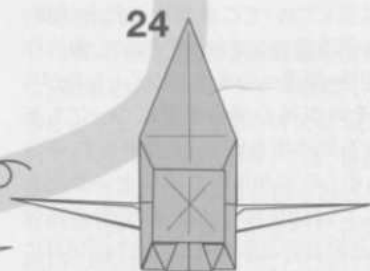
カドを  
結ぶ線で折り筋をつける  
Fold and unfold  
along  
the line connecting  
the corners.

28



この図のように  
16で鼻緒の部分を  
裏返さないで折った下駄  
初めに発表されたのは  
こちらの形でした  
The figures below shows  
the model without color change,  
which was the initial published one.

24

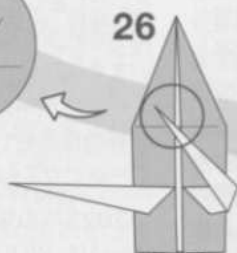


27

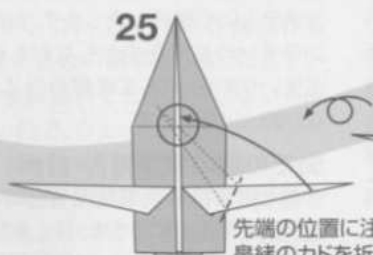


鼻緒のカドの  
先をひねるようにして  
後ろのすき間に折り込む  
Fold the corner  
to inside.

26



25



先端の位置に注意して、  
鼻緒のカドを折る  
Fold the corner up.

# 日本折紙学会(JOAS) 34期事業報告と35期予定

## The JOAS Report on the 34th Fiscal Year and Its Plans for the 35th Year

### 1) 会員・定期購読者、機関誌

第34期(2023年4月-2024年3月)の購読者は1072名(内会員数513名、3月4日現在)で、前期からの若干の増加となっています。しかし、中長期的には減少傾向となっており、会員(正会員)への特別配付物(折り図を掲載)の回数を増やし年3回とするなどで会員数増を図っています。機関誌『折紙探偵団マガジン』は、海外向けにダイジェストの英語訳を添付しており、事実上のバイリンガルとなっていますので、海外の愛好家や研究者にも広く薦めることのできる出版物です。最新の情報や作品を掲載した機関誌の購読者と、会員(機関誌購読+特別配付物+指導員資格取得権他)は会の大きな柱です。第35期から、国内外の郵便料金の大幅な値上げに伴い、購読費・会費を約10%値上げいたしますが、会の活動理念にご理解をいただき、引き続き購読・会員継続していただきますようお願いいたします。

### 2) 吉野一生基金

「吉野一生基金」には2023年度も皆様のご寄付を頂いています。あらためてお礼申し上げます。2023年5月の九州コンベンションでのカルメン・スプラング氏への招待金の補助、8月の第28回折紙探偵団コンベンションでのバク・ジョンウ氏およびオリオール・エステベ氏の招待金、12月の名古屋コンベンションでのチャン・ヨンイク氏への招待金の補助を、基金より支出いたしました。なお、2022年度の総会において基金の用途の拡張についてご承認いただき、規約の一部改定しておりますので、海外作家招待・派遣への支出を中心としながらも、それ以外の学会事業についても基金を有効活用させていただきます。今後とも多くの方からのご理解をいただきますようお願いいたします。会計の報告は、会の会計とあわせて、2024年8月に予定している総会で行います。

### 3) 折紙探偵団コンベンション

2023年度は、5月に第12回九州コン

ベンション(九州友の会主催)、8月に東京で第28回コンベンション(日本折紙学会主催)、12月に第13回名古屋コンベンション(東海友の会主催)を開催いたしました。いずれもオンラインの場も用意しながら対面での開催でした。第28回コンベンションは、柏村卓朗、萩原元両氏がマネージャとサブマネージャとなり、多くのボランティアの協力を得て、4年振りの対面での開催となりました。久しぶりに会った、また初めて会う愛好家や作家の交流が進んだものと考えています。また、同コンベンションにおいては、4年振りに、恒例だった創作折紙コンテストに相当する「創作折紙人気投票」を開催することもできました。2024年度は、5月25、26日の佐賀市での第13回九州コンベンションの開催が決定しており、8月開催予定の東京大学本郷キャンパスでの第29回コンベンションも、準備を開始いたしました。第14回名古屋コンベンションも予定されています。引き続きオンラインも活用しますが、対面での折紙愛好家や研究者の交流の場となることを期待しています。

### 4) 友の会例会

2023年度は、オンライン例会の継続に加え、対面での会も行われるようになりました。友の会世話人の皆様やボランティアや講師のご協力により、2023年4月から2024年3月の期間で、東北(12回)、東京(12回)、東海(11回)、九州(11回)、関西(7回)、静岡(11回)(回数は対面とオンラインの合計)の例会が開催されました。オンラインでは、引き続き、オンラインパスポート制による有料システムにて運営いたします。対面とオンラインの長所を生かしながら運営してまいりますので、ご理解のほどよろしくをお願いいたします。

### 5) その他の事業報告・計画

◇折紙資料の収集整理を目的とした「折紙図書館」事業では、長く未整理のままだったものも含め、収集整理した資料の目録を増やしております。現在、約

2000点をウェブで検索できます。ご利用についてはウェブ等で案内いたします。

◇折紙の普及に寄与する人材育成を目的とした「折紙指導員」制度につきましては、2023年度2名の取得者があり、これまでの取得者数は約80名となりました。受験は、友の会の主催を含むコンベンション講師募集と同時期になりますので、ウェブにてご確認ください。折紙指導員に対する「折紙講習等で使用可能な作品許諾リスト」についても多くの折紙作家の皆様のご理解を得て約30名の折紙作家の許諾リストとなっており、作家数を増やしてゆく予定です。また、指導員に対して、会に折紙講師の依頼があった場合の対応に関するアンケートを取り、これを基にした、講師紹介制度を検討中です。

◇折紙の科学・数学・教育研究集会につきましては、6月に第34回、11月に第35回を、それぞれ北陸先端科学技術大学院大学、東京大学を会場にして対面で開催し、講演はオンラインでも配信いたしました。協力していただいた大学関係者、研究者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。2024年度も、大学関係者の協力を得て年2回の開催を予定しております。分野を超えて広がる折紙研究活動の場として、今後もご期待ください。

◇2023年度に学術誌『折紙の科学』第9号をPDF版として発行いたしました。また、2023年6月より、これまで『折紙の科学』に掲載された論文の大部分を、だれにでも閲覧可能なオープンアクセスといたしました。数学・工学・教育などに関する約30の論文が閲覧可能となっています(<https://origami.jp/science/>)。オープンアクセスは、研究環境における世界的な潮流でもあり、折紙研究発展の一助になるものと期待しています。

◇2023年のWOD(World Origami Days)は、WOD期間中(10月21日から

11月11日)に投稿ページを設営しました。WODの理念は世界的にも定着してきており、今後も、折り紙の普及という会の目的に合わせて、活動を続けてゆく予定です。

◇折り紙の知的財産権検討に関しましても、種々研究を進めております。日本折紙学会折紙指導員に対する作品許諾リストの公表も本研究に裏打ちされた活動となっています。知財問題の調査活動資金である「折り紙の知的財産権検討基金」へも皆様のご寄付をお願いしているところです(<https://origami.jp/ip-rights/>に寄付要項掲載)。今後も折り紙の知的財産権の研究を着実に推進いたします。

## 6)総会・その他

◇2023年8月11日に総会をオンライン

で開催し、日本折紙学会の会計や諸活動の現状と今後についてご報告し、承認を得ました。副会長職を設ける規約の変更も了承いただきました。2024年度の総会は、第29回折紙探偵団コンベンション開催時期に合わせて実施する予定です。総会参加資格者は2024年6月30日までに第35期会員に登録いただきました方として、追ってご案内を送付します。

◇日本折紙学会の役員体制は、三浦公亮会長以下、山口真副会長、評議員として小松英夫(4)、館知宏(4)、立石浩一(2)/関西友の会代表、西川誠司(6)、北條高史(6)/東京友の会代表、前川淳(3)、野口マルシオ(8)、三谷純(7)の8名の継続(かつこ内は年数)に加え、小野友彰、松浦英子、水野健/東海友の会代表、世浪健の4名を加えたものとなります。評議員代表は前川淳が務めます。川

村みゆきは任期満了、羽鳥公士郎は私事多忙により評議員を退きます。『折紙探偵団マガジン』編集長と事務局長は、引き続き野口マルシオが務めます。評議員会の参加メンバーは、上記評議員と副会長に加え、川村みゆき/九州友の会代表、山本陽平/『折り紙の科学』担当、山梨明子/静岡友の会代表、福島邦幸/東北友の会代表、亀井浩平/東海友の会副代表、山北克彦/九州友の会副代表他です。また、川崎敏和氏、川畑文昭氏はじめとする顧問の各氏からも随時アドバイスを受けております。会の諸活動は多くのボランティアによって成り立っています。ご理解ご協力を、今後ともよろしく願います。

◇最後に、長く当会の評議員・顧問を務めていただいた故・津田良夫氏に感謝し、哀悼の意を捧げます。



Orisuzi ("Fold-Creases")

## 召しませ、越前和紙

Enjoy Echizen Washi

## 宮永智悠

Miyanaga Tomohiro

幸運にも越前和紙の産地である福井県越前市の近郊に生まれ、学生時代は和紙の里に足しげく通っていたこともあり、現在までに制作した作品の八割以上に和紙を使用しています。そこで今回は越前和紙の魅力について、恩返しのためで少し紹介してみたいと思います。

越前和紙には金型の使用や抄き込み、漉き合わせなどの技術が用いられており、その組み合わせによって多彩な色、厚み、質感、模様製の製品が作られています。なかでも色と質感については「この紙の色はあの鳥になるために生まれてきたのでは…?」「この紙で○○さんの竜を折ったら絶対格好いいやん」というような絶妙なものが次々

に見つかります。個人的には雲肌、雲竜、もみ紙がお気に入り、気に入ったものはなるべく購入して〈積ん読〉のように寝かせておき、ここぞというときに作品にします(そして大量の在庫を抱えるまでがセット)。早く作品を世に出して紙に日の目を見せてやりたい、というのも作品制作のモチベーションになっています。

越前和紙は和紙の中でも厚めの製品が多く、コンプレックス作品を作るときは大きめの紙で折るようにしています。水に濡れても色落ちしないものが多いので、ウェットフォールディングもよく使います。折り工程の要所や仕上げの段階で広範囲を濡らして形を決めてもよいですし、折りすじを水筆でなぞって押さえて乾かすだけでも、

しっかりした線を付けることができます。作品の表面が毛羽立つこともありますが、折りすじ上の気になるところだけでもCMCを塗ることで、作品の輪郭がシャープになります。いずれもそれなりに手間暇がかかりますが、丁寧に処理することで何年も形の崩れない作品を作ることができます。

今年の春には北陸新幹線も延伸し、和紙の里へのアクセスも良くなるかと思えます。毎年GWに開催されている「神と紙の祭り」では、普段店頭で見られないような紙もお値打ちで売られ、うず高く積まれた各製紙所の紙は壮観です。ぜひ北陸にお立ち寄りの機会がありましたら、紙との一期一会をお楽しみください。



# Rabbit Ear つまみおり information

## ◆価格改定のお知らせ

前号でもお知らせしましたとおり購読費、会員費の価格が改定されます。前号のお知らせをご確認ください。2024年は国内外の郵便料金の大幅な値上げが予定されております。それに伴い、日本折紙学会といたしましても会費、購読費を下記通り価格改定させていただきます。本価格は2024年4月からの第35期会費からの適用となります。詳しくは学会ホームページでお確かめください。

会費(国内):8,400円→9,000円  
PayPalの場合は手数料込み9,400円  
購読費(国内):4,200円→4,800円  
PayPalの場合は手数料込み5,020円  
会費(海外):11,000円→13,000円  
PayPalの場合は手数料込み13,500円  
購読費(海外):5,900円→7,900円  
PayPalの場合は手数料込み8,320円

## ◆第13回折紙探偵団九州コンベンション開催のお知らせ

新年度が始まり忙しい2ヶ月が過ぎた頃、ふと九州を思い出す…。今年もやります九州コンベンション! 講習会に懇親会、作品展示にATC。招待講師の萩原元さんにも直接お会いできるチャンスです! 折って笑ってまた折って、右も左も折々折々。梅雨入り前のこの時期に、佐賀でのんびり折り紙三昧の週末はいかがですか? 馴染みの友達や懐かしいあの人との語らいを堪能した後は、ゆったり温泉に浸かるもよし、有明の珍味に舌鼓を打つもよし。思い思いの旅を楽しんでくださいね♪

そして残念ながら遠出ができない、予定が合わない皆様はZoom参加ができますよ~! コンベンションの後は録画でゆっくり復習できます。みんなちがってみんないい。そんな5月になりますように。

●第13回折紙探偵団九州コンベンション  
日程:2024年5月25日(土)・26日(日)

会場と定員:ハイブリッド開催です。  
リアル会場 = 佐賀県立アバンセ  
100名程度  
Zoom会場 = 人数制限無し  
招待講師:萩原元さん  
リアル会場での参加です!  
参加費:リアル、Zoomとも同額です。  
大人4,000円  
学生3,000円

参加申し込みは3月末頃から受付スタートの予定です。  
九州友の会ブログのコンベンション特設ページからオンラインでお申し込み

頂けます。

- 懇親会:5月25日(土)  
ホテル千代田館7,000円(希望者のみ)
- 宿泊:各自でご予約ください。
- 講習:リアル会場&Zoom  
1コマ60分または90分。全25コマ程度  
※講師募集!講師ご希望の方は下記特設サイトからお申し込みください。  
※講習はすべてZoomで録画されます。  
リアル会場での講習もリアルタイム配信および後日録画公開となります。
- 作品展示会&発表会:リアル会場&Zoom

作品発表会は作品を持ち寄って皆で見せ合う時間です。ご自身の創作でなくても構いません。力作をお待ちしております!  
※参加希望の方はお申し込み時に該当欄にチェックを入れてください。

- ATC交換会:郵送でのスワップ交換  
九州友の会主催の交換会です。交換はコンベンション参加者でなくてもご参加頂けます。コンベンション中に行われる報告会(リアル&Zoom)への参加・見学はコンベンション参加者のみとなります。

テーマ「ラッキーアイテム」  
定員:最大25名  
参加の事前予約:4月10日締め切り  
カードの郵送期限:5月20日必着  
※参加には事前予約が必要です。  
希望者が多い場合には調整させて頂く場合があります。  
※4月11日に主催を含めた事前予

約の人数を発表しますので、その枚数でカードを制作してください。

※事前予約は特設ページからお申し込みください。これはコンベンションの参加申し込みとは別の扱いになります。

●新企画!おりがみプラス:折紙アイテムの自由交換会

折紙作品を使ったブローチや小物、余った過去のATCなど、自由に交換するイベントです。

何か1つを企画受付に提出してエントリーしてください。詳細は特設ページをご覧ください。

※対象者はリアル会場参加者のみ。郵送参加はありません。

●九州コンベンション特設サイト  
<https://q-syu.squares.net/blog.cgi>  
ここからリンクされる特設ページに詳細と申し込みフォームが掲載されます。

●お問い合わせ先  
メール:q-syu@plala.to  
コンベンション内容はやむを得ず変更になる場合がありますので、特設サイトで最新情報のご確認をお願いいたします。スタッフ一同、皆様のご参加をお待ちしております!



招待講師の萩原元さん



九州友の会

## ◆第36回折り紙の科学・数学・教育研究集会

5月18日(土)、19日(日)に、茨城県の筑波大学において、第36回折り紙の科学・数学・教育研究集会を開催します。対面での開催が復活した昨年は、石川県の北陸先端科学技術大学院大学、東京大学駒場キャンパスを会場として、大学関係者の協力を得て2日間での開催となりました。今回も同様に筑波大学で2日間での開催です。なお、各研究者の発表はオンラインでも配信します。

この集会の参加者は、前々回が約50名、前回は約80名でした。折り紙に関する研究者や愛好家が分野を超えて集まり、内容は、数学、工学、歴史研究と多岐にわたります。折り畳みに関連する建築工学や数学などの研究は、専門的な内容を含むものも多いですが、折ったのしむ工芸や美術としての折り紙にも結びつくことを見出せるのが、この研究会の特徴です。たとえば、精緻な模様をつくる「平織り」や曲線を含む立体造形の設計においては、コンピュータを用いた設計が欠かせないものとなっていることなどです。会はどなたでも参加できますので、興味を持っていただければと思います。

会では、参加者にじっさいに手を動か

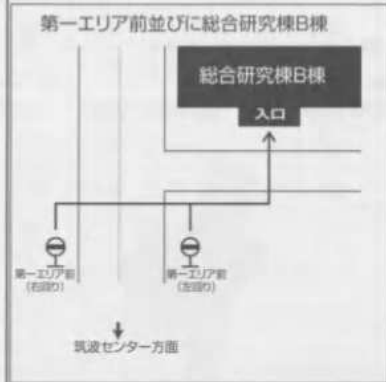
してモデルを作成してもらうワークショップ形式にも力をいれており、前回は三浦公亮氏自らによる「新方式」のミウラ折りの講習などがありました。また、大学の研究室や博物館を見学するツアーの時間も設けており、今回も、『シン・ゴジラ』の折り紙監修などでも知られる三谷研究室を三谷純氏に案内をしていただく予定です。

- ・参加費は2000円(オンラインのみ1000円)です。日程は以下となります。
- ・4月25日:発表者締め切り(ウェブから申し込み。発表者には資格の制限などはありません)
- ・5月1日:参加申し込み開始
- ・5月18、19日:当日

会場の筑波大学・筑波キャンパス(天王台キャンパス)総合研究棟B棟 1階110は、東京の秋葉原から「つくばエクスプレス」でつくば駅まで45分、駅バスターミナル6番乗り場にて筑波大学循環(右回り)に乗りして約15分、「第一エリア前」で下車というのが一般的なルートとなります。東京からも遠いようでいて日帰りも可能なので、参加をご検討ください。詳細はウェブをごらんください。

折り紙に関する学際的な研究会としては、7月16日から18日の3日間、第8回折り紙の科学・数学・教育国際会議が、オーストラリアのメルボルンにあるスウィンバーン工科大学で開催されます。

三谷純(筑波大学):本学キャンパス内で研究集会を開催できることを嬉しく思います。オンライン会議には、たしかに効率性・経済性の良さはあるものの、やはり対面での交流によって得られるものの価値は何ものにも代えられないものがあります。ぜひ、これを機会につくばまで足を運んでいただければ幸いです。みなさまの参加をお待ちしています。



## ◆「講師紹介制度(仮称)」を検討中

担当小野友彰

日本折紙学会(以下「JOAS」)では、折紙教室等で講習可能な人材をご紹介したい、というご依頼を受ける場合があります。JOASから適任者を速やかに紹介する「講師紹介制度(仮称)」を検討中です。具体的には、①JOAS認定折紙指導員、及び、②折紙指導員向け「折り紙講習で利用可能な作品情報」に作品提供頂いている作家(以下「協力作家」)の皆様の中から選出する仕組みとするために、過日、この方々を対象として、受任意思の有無、謝金、出張可能地域、講習可能な作

品難易度や受講者の年代等についてアンケートを実施しましたところ、受任意思ありとご回答頂きました約40名の方々にご協力を得られる状況がわかりました。この結果を受けて、費用関係の他、選出プロセスも含めて骨子を策定中です。

ところで、来期の「折り紙講習で利用可能な作品情報」では、本制度によりJOASから講師派遣推薦された先で講習する際の協力作家による作品利用についても、作家の皆様からご了解を頂くことができました。本制度により協力作家の方

が紹介された際は、ご自身の創作品の他、同「作品情報」中の許諾作品も含めて適切な講習作品を選定可能となります。なお、協力作家の同「作品情報」の相互利用は、本制度によりJOASから講師派遣推薦された先で講習をする場合に限定されます。

最後に、折紙指導員の皆様におかれましては、上記のような取り組みを是非ご理解頂きまして、来期の会費と共に指導員更新料の納付をお忘れなくお願い申し上げます。

## ◆2024年度 吉野一生基金募金のお願い

「吉野一生基金」は、世界中の折り紙愛好家に認められた故・吉野一生氏を偲んで設立された基金です。

1997年からこれまでに14カ国のべ92名の折り紙スペシャリストを招待してきました。今年度は世界で活躍中の4名の折り紙作家を招待し、交流に役立てさせていただきました。

来年度の折り紙作家の招待等については未定ですが、今後ともこの活動を継

続していくために、皆様のご支援をお願い申し上げます。

### 寄付金募集要項

「吉野一生基金」にご賛同いただける方の寄付金を募集いたします。なにとぞ「趣旨」「規約」をご理解の上、多くの方々にご協力頂けるようお願い申し上げます。

募金の単位は、会計管理上一口1,000円50口以下でお願いいたします。

### 郵便振替での送金

同封の郵便振替用紙にて、お近くの郵便局からお振り込みください。

口座番号: 00190-3-727623

加入者名: 吉野一生基金

※振替手数料はご本人負担となります。

### PayPalでの送金

メールアドレス宛の送金で

yoshinofund@origami.jp 宛に送金下さい

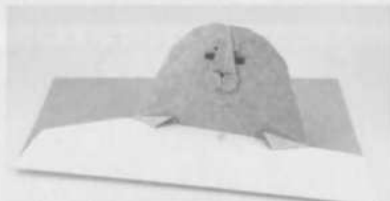
※送金額にPayPalの手数料が含まれます。予めご了解下さい。

## ◆各地の折紙探偵団友の会例会予定

2024年4月～6月のオンライン参加には2024Q1オンラインパスポートが必要になります。日本折紙学会ホームページからお求めください。

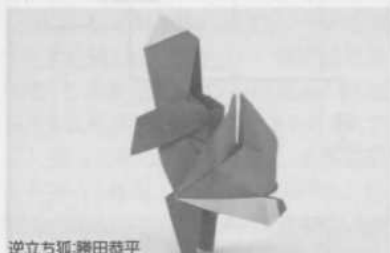
### 東京友の会 ※オンライン例会

●4月6日(土)14:00～  
講師:萩原元  
作品:海から顔を出したアザラシ  
Seal peeking out of the sea  
用紙:正方形2枚 24cm角を推奨



海から顔を出したアザラシ 萩原元

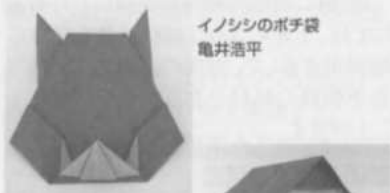
●5月4日(土)14:00～  
講師:勝田恭平/作品:逆立ち狐



逆立ち狐 勝田恭平

### 東海友の会 ※ハイブリッド例会

●4月20日(土)13:00～15:30  
会場:toko+toko=labo(江南市布袋駅東複合公共施設)  
講師:亀井浩平/作品:イノシシのポチ袋  
講師:川畑文昭/作品:山小屋  
●5月18日(土)13:00～15:30  
会場:布袋ふれあい会館(江南市)  
講師:竹内啓/作品:ククノチ  
講師:南島和英/作品:未定



イノシシのポチ袋  
亀井浩平



山小屋 川畑文昭



ククノチ 竹内啓

### 静岡友の会 ※折り紙は各自持参

●4月14日(日)13:30～15:30  
オンライン例会  
講師:山梨明子  
作品:新富士山BOX  
●5月12日(日)10:00～15:00頃  
会場:興津生涯学習交流館(静岡市)  
参加費 大人500円、中学生以下200円  
講師:小崎重碩(中2)  
作品:小鳥(小崎重碩 作)  
○静岡友の会ブログにて随時情報を掲載します。<https://origami.eshizuoka.jp/>



新富士山BOX  
山梨明子



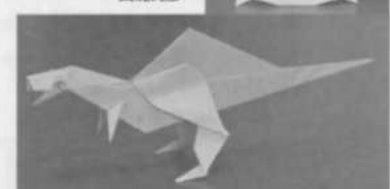
小鳥 小崎重碩

### 九州友の会 ※ハイブリッド例会

●4月28日(日)14:00～  
会場:佐賀アバンセ  
講師:山北克彦/作品:ねこ、きょうりゅう  
○5月は九州コンベンション開催につき、通常の例会はお休みします。



ねこ  
きょうりゅう  
山北克彦



### 東北友の会 ※折り紙は各自持参

●4月21日(日)10:00～16:00  
●5月19日(日)10:00～16:00  
会場:仙台市八木山市民センター  
参加費:300円(会場費)  
内容:自由折り(リクエスト可)  
連絡先:福島邦幸  
k-fuku@mve.biglobe.ne.jp

### 関西友の会

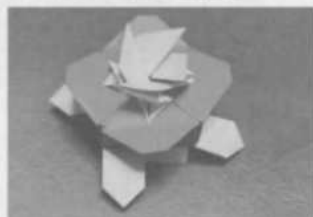
オンライン例会は  
ありません

会場:西宮市大学交流センター講義室1  
(阪急西宮北口駅北出口すぐ、アクタ西宮東館6階)

●4月28日(日)13:30～16:50  
講師:稲吉秀尚  
作品:オオサンショウウオ、Flower BOX

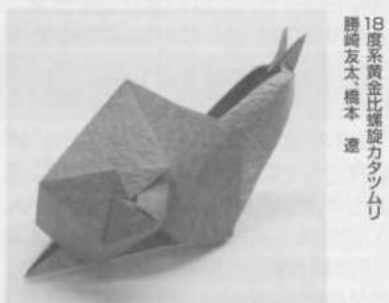


オオサンショウウオ 稲吉秀尚



Flower BOX 稲吉秀尚

●5月26日(日)13:30～16:50  
講師:橋本遼、勝崎友太  
作品:18度系黄金比螺旋カタツムリ  
(15cm2枚複合作品)



18度系黄金比螺旋カタツムリ  
勝崎友太、橋本遼



裏から見たとこ

日本折紙学会公式HP  
<https://origami.jp/>

### 折紙探偵団マガジン

2024年3月25日発行 第34巻6号 通巻204号  
発行所/日本折紙学会  
〒113-0001  
東京都文京区白山1-33-8-216  
Phone & Fax / 03-5684-6080  
発行人/前川 淳  
編集人/野口マルシオ  
編集人補佐/山口 真  
編集スタッフ/おりがみはうす  
翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

おりがみはうす商品案内

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。  
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.  
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



在庫限り!  
川畑文昭折り紙作品集

川畑文昭 著 / 山口 真 編 立石浩一 訳 / 3,630円(税込) / 送料 440円 / B5判 / 全180頁 / カラー口絵4頁 / 16作品収録 / 収録作品=ネコ、猪、シマリス、ビーグル犬、ニホンザル、ボニー3D、ハシビロコウ、小鳥、鳥君、亀、トリケラトプス、T-Rex 2015、スピノサウルス、ステゴサウルス、ペガサス'02モデル、ヨーダ

書籍名 / 著者・编者	価格(税込)	送料	内容
北條高史折り紙作品集	北條高史 著 4,400円	国内一律 1冊 440円 (梱包込) 2~3冊= 650円 4冊= 1,090円 5~6冊= 1,300円 ※4冊以上の発送は期包等の都合上2つに分けての発送になります。	B5判 / 全212頁 / 11作品収録
萩原 元折り紙作品集	萩原 元 著 3,520円		B5判 / 全180頁 / 20作品収録
勝田恭平折り紙作品集	勝田恭平 著 3,520円		B5判 / 全180頁 / 13作品収録
神谷哲史折り紙作品集3	神谷哲史 著 4,400円		B5判 / 全232頁 / 15作品収録
ユ・テヨン折り紙作品集	ユ・テヨン 著 3,190円		B5判 / 全180頁 / 20作品収録
クエンティン・トロリップ折り紙作品集	クエンティン・トロリップ 著 3,190円		B5判 / 全180頁 / 19作品収録
神谷哲史作品集	神谷哲史 著 4,400円		B5判 / 全228頁 / 19作品収録
神谷哲史作品集2	神谷哲史 著 4,400円		B5判 / 全232頁 / 16作品収録
折紙図鑑 昆虫II	ロバート・J・ラング 著 3,850円		B5判 / 全196頁 / 18作品収録
西川誠司作品集	西川誠司 著 1,760円		B5判 / 全196頁 / 32作品収録
面~The Mask~	布施知子 著 1,815円		B5判 / 全200頁 / 27作品収録
エリック・ジョワゼー折り紙のマジシャン	山口 真 編著 5,280円		B5判ハードカバー / 全144頁 / カラー80頁
第28回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.28	日本折紙学会 編 3,080円		B5判 / 全272頁 / 40作品を収録
第27回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.27	日本折紙学会 編 2,860円		B5判 / 全272頁 / 35作品を収録
第26回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.26	日本折紙学会 編 2,640円		B5判 / 全272頁 / 47作品を収録
第25回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.25	日本折紙学会 編 2,750円		B5判 / 全304頁 / 57作品を収録
第24回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.24	日本折紙学会 編 2,750円	B5判 / 全304頁 / 61作品を収録	
第23回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.23	日本折紙学会 編 2,750円	B5判 / 全304頁 / 64作品を収録	
第22回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.22	日本折紙学会 編 2,750円	B5判 / 全304頁 / 61作品を収録	
第21回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.21	日本折紙学会 編 2,530円	B5判 / 全288頁 / 57作品を収録	
第20回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.20	日本折紙学会 編 2,530円	B5判 / 全288頁 / 61作品を収録	
第19回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.19	日本折紙学会 編 2,530円	B5判 / 全288頁 / 53作品を収録	
第18回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.18	日本折紙学会 編 2,420円	B5判 / 全272頁 / 48作品を収録	

商品名	価格(税込)	送料
株式会社トーヨー 単色おりがみ色見本帳61色	385円	140円

※2冊、2セット以上の送料はお問い合わせください

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

おりがみはうす  
オンラインショップ

<https://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を

25%引きで販売中!

※創作専科・アウトレット商品等を除く / 発送は週1回木曜日

詳しくは  
検索サイトで

おりがみはうす

検索

商品のお申し込み方法

先に郵便振替が現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を送らせて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※PayPalによるお支払いも可能です。  
詳細は公式HP <https://www.origamihouse.jp>まで  
※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。  
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。  
※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。  
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆、年末年始等を除く)。  
※書籍と紙はそれぞれ別発送となります。  
※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



GALLERY ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216  
TEL: (03) 5684-6040 FAX: (03) 5684-6080  
E-mail: info@origamihouse.jp  
月~金 12時~15時 土・日・祝 10時~18時



### About - Origami Tanteidan Digest

The objective of the Origami Tanteidan Digest is to share the articles on Origami Tanteidan magazine and provide an English summary of most (but not all) text. The numbers indicated as "Page xx" refer to the page numbers of the original articles in the magazine. While not all content is translated, it should give you an idea about what the article is about. Depending on the context, "Translator's Note" will be provided for clarity or terms that might not translate easily either because of the language or technical nature. We hope you will enjoy. Let us know if there is anything we can do to improve or any further comments. Please contact our editorial department at: [editor@origami.jp](mailto:editor@origami.jp)

### Table of contents

- (Page 7) Origami and Its Neighbors
- (Page 14) Close-up
- (Page 18) From the Bookshelves of the JOAS Library
- (Page 26) Crease Pattern Challenge
- (Page 38) The JOAS Report on the 34th Fiscal Year and Its Plans for the 35th Year
- (Page 39) Orisuzi ("Fold Creases")
- (Page 40) Rabbit Ear Information

Translated by Marcio Noguchi

### (Page 7) Origami and Its Neighbors #123 – Dorayaki- ("Gong Cake") shaped Knee Pad By Tomoko Fuse

This year, due to the end of the Covid pandemic [in Japan], I have been attending art festivals and other exhibitions, so I am living a hectic life.

I planned to create some new large-scale models, but as usual, I don't have a large space to work on, so I'm having difficulties. Imagine a piece of paper that is 1m wide and 10m long. Fold it in half lengthwise. This is quite a considerable task. If I connect two rooms, it will be about 10+6 tatami mats area, but there are desks and some other furniture in there. As a last resort, I first folded it a few meters, then gently rolled it up from the end to make it shorter, and then continued to roll it out gradually. I had to walk over there and come back here, as well as finding out wrinkles. After all, the first fold is [always] difficult. Of course, the area is the largest at the beginning. When you fold it in two or three, it suddenly becomes shorter and smaller, which is a relief. What's more, it was winter and I would be using a kerosene stove, so I had to be careful about that as well. In the end, I ended up putting out the fire and folding it in the cold. Of course, I could have waited until spring, but I could not take it easy. I thought about renting a place, but I decided against it because it would be a hassle to carry the materials back and forth. Also, if you have a large sheet of paper, you will have to crawl on the floor to fold it. This is called "floor folding". My knees and lower back hurt, and folding origami using the whole body is a little difficult for me due to my age.

It was a long time ago, but when I had a solo exhibition at the Toyoshina Museum of Modern Art in 2016, I did a participatory public production, and with the help of my friends, I folded several large spiral pillars. A female potter who participated made homemade knee pads and brought them to us on the second day. It was a simple dorayaki [a type of Japanese confection, consisting of two small pancake-like patties and a filling of sweet azuki bean paste] mold made of round felt fabric with cotton sandwiched between the top and bottom, and a rubber string attached. It turned out to be very useful. Apparently, she got stiff from folding the floor on the first day, so she sewed it overnight. The four local members, including my friend and I, all put on knee pads and called ourselves the "Dorayaki Sisters" and had fun working together. That knee pad is still in use today, and I still use it from time to time.

It's a warm winter this year. Every year, I look forward to seeing animal footprints in the snow. But this year, it seems like winter will be over before I can fully enjoy it. The flowerbed, which I call "Hinadan" [tiered hina-dolls stand], which is located like a shelf on the slope just below my living room, is full of serow goat droppings.

### (Page 14) Close-up Memories of Yoshio Tsuda (Passed away on Jan. 30)

Yoshio Tsuda, a board member of Japan Origami Academic Society (JOAS) and a well-known origami artist, passed away on January 30th. He was 70 years old.

### ◆ Memorial: Yoshio Tsuda

By Jun Maekawa, board chair, Japan Origami Academic Society (JOAS)

Tsuda was a person who listened intently to what people had to say. When I talked to him about something he was interested in or had a thought about, he said things like, "Something important about origami is its unexpectedness, right?" or "Where on earth do the mosquitoes on the 8th floor of my apartment come from?" He kindly talked with me. I believe that Tsuda hardly created modular origami, but when I showed him my modular model at one meeting, he checked the details of its proportions and structure and evaluated it. I remember that I first met Tsuda in 2002 at a monthly meeting in Tokyo. I usually don't take many photos, but I still have a photo from that time. I think I got excited and thought, "Oh, this person is Tsuda who created the Geta [Japanese Wooden Clogs]" and felt like I had to keep a record of it. Speaking of "Oh, it's Tsuda-san" moments, when the news that a dengue fever was discovered in Tokyo, a video of a researcher catching mosquitoes in Yoyogi Park was interviewed. That person was Tsuda-san. At that moment I shouted, "Oh, it's Tsuda-san". Tsuda always had a calm and smiling demeanor, even when he was swinging an insect net with skill. I am now thinking about his appearance, which exudes his personality, and the origami work that reflects that.

### ◆ Perfect Origami

By Toshikazu Kawasaki, advisor, Japan Origami Academic Society (JOAS)

Tsuda is two years older than me, and we became close friends when he was a resident of Nagasaki University. Speaking of Tsuda, everyone probably thinks of "Geta", "Butterfly", the "Mosquito" that graced the cover of Origami Tanteidan Magazine, and his gentle face with a moustache.

The first encounter was with "Geta." I was surprised by the choice of theme and the natural composition of the thong based on the bird base. The "Butterfly" motif was a swallowtail butterfly, and it's simply stunning. He taught me what perfect origami should look like. A form unique to origami. The folding process takes advantage of the characteristics of paper and is rhythmic, natural, and fun. The folding of the tail protrusion is also wonderful. It is not folded to create a shape, but it is folded naturally. It looks like a wood carving carved out of a shape that was already inside the tree. At the end of the folding process, the wings and body appear like a paper airplane. It maintains its shape without the need of a foil paper. It is a masterpiece among masterpieces, worthy of being called "Perfect Origami."

Tsuda's dexterity was also extraordinary. At a convention, I once saw him fold something similar to "hydrangea fold", where the center gets smaller and smaller. The way he folded the pieces carefully and accurately with his nails was like that of a master craftsman.

Today, there are few artists who deeply understand the meaning of folding ordinary paper, and it is sad that he passed away so early at the age of 70. For that reason, I am once again grateful for the good fortune of encountering such wonderful works and folding techniques.

Offering tea to Buddha is part of my morning routine, joining hands with my ancestors and origami masters. From the morning of January 31st, Yoshio Tsuda joined Ichiro Kinoshita and the creator of the origami crane.

### ◆ Really Sad

By Seiji Nishikawa, board member, Japan Origami Academic Society (JOAS)

On January 31, 2024, we received the sad news.

I first learned about Tsuda around 1982. I had just entered university and was helping at the Japan Origami Academic Society's origami exhibition when a lady approached me. At first, the lady said that she had met me several years ago, but after a while I realized that she was probably referring to Tsuda. At that time, university students who were passionate about origami were rare, and even though we were about 10 years apart, Tsuda and I approached each other repeatedly. After that, I saw Tsuda's works in magazines and in his books, but I didn't meet him until after he was appointed to the National Institute of Infectious Diseases in Tokyo and was nominated as a councilor of Japan Origami Academic Society. Tsuda has provided many suggestions for the future of JOAS with passion and determination. Now, when I reread the letter from that time, I am once again impressed by his sincere personality.

Tsuda's book "Sosaku origami wo tsukuru" [Designing Origami Models] (Otsuki Shoten, 1985) was very thought-provoking. The early 1980s was a time when design theory was emerging in creative origami and people were excited about the future of technological development. This book also develops a new technical theory of creation, but the final chapter asks the question, "What is the true appeal of origami?" I was asking myself similar questions, and I felt that I had been given the courage to continue to ask questions as I reflected on the meaning in my own way of "kokoro" [heart] that Tsuda presented in the book. Unfortunately, I did not have a chance to have this kind of conversation with Tsuda.

Tsuda specialized in mosquitoes that transmit

infectious diseases. I can still picture him in a park wielding an insect net when he was interviewed on TV on the topic of dengue fever. I wish him the best of luck. Rest in peace.

#### ◆ University Senior

By Fumiaki Kawahata, advisor, Japan Origami Academic Society (JOAS)

I first saw Tsuda's work in 1976. It happened when I went to the room of a person (a graduate student in the Faculty of Agriculture) who was connected to the boarding house where I started living after entering university. On the way home, I happened to look at the wall and saw a splendid origami mask on display. I couldn't help but ask, "Do you do origami, too?" and he replied, "A friend of mine made it". It turned out that it was Tsuda's work. He graduated from the Faculty of Agriculture at Iwate University in 1976, and I entered the Faculty of Engineering in 1976. So, I was not able to meet him directly at the university, but I was eventually able to meet him in person. Since then, his name has been deeply etched in my memory as an origami senior at university. After that, every time I came across Tsuda's work, I was moved by its splendor. I learned a lot about creative thinking from Tsuda's book "Sosaku origami wo tsukuru" [Designing Origami Models] which I purchased after graduating and starting to work. I still remember being very impressed by the innovative ideas that he came up with. Later, I was finally able to meet Tsuda in person through the activities of the Japan Origami Academic Society (JOAS), and we were able to talk about various things, including my memories from the university days and about origami. Tsuda's specialty was mosquitoes, and I remember getting excited about his experiences dealing with the dengue fever outbreak in Tokyo, the ecosystem, and origami mosquitoes. He was a very charming senior who always talked to me with a carefree smile. I sincerely pray for his soul to rest in peace.

#### ◆ Memories of Tsuda

By Miyuki Kawamura, board member, Japan Origami Academic Society (JOAS)

I first came to know about Yoshio Tsuda's work when I saw "Sosaku origami wo tsukuru" [Designing Origami Models] book at the library when I was in junior high school. I liked the three-dimensional feel of birds and remember folding several of them. About 10 years later, I met him for the first time at OSME in Otsu, or at a convention in Tokyo, although I don't remember it well. I thought he was an amazing creator and someone who was above the clouds. Every time I saw him at a convention, I would be nervous because he was tall

and had a mustache. But when I did get to talk to him, he was very kind, and I remember listening to him with great interest as he talked about going into rice fields to look for insects. It was around that time that I heard that he lived in Nagasaki.

By the time I moved to Saga, Tsuda had moved to Tokyo, so I was not able to meet him in Kyushu. But I was lucky to have been blessed with the opportunity to learn directly from him about many of the masterpieces. It was fun and happy moments. My personal favorite, the conch shell, was shockingly realistic. I strongly feel the excitement of easily transcending the boundaries of origami modeling and connecting to a new world.

In Tokyo in 2015, I had the opportunity to talk to him about various topics, including overseas museums and his creative work. When it came to creative writing, he told me that he had been greatly influenced by Kunihiro Kasahara's 1973 book "Creative Origami: Fun Paper Shaping," and he sent me information on references, which became an unforgettable memory for me. I received a lot of wonderful works and a spirit of creativity. Thank you very much and rest in peace.

#### ◆ Origami with confidence

By Takashi Hojyo, board member, Japan Origami Academic Society (JOAS)

Tsuda contributed to JOAS as a board member and advisor even though he was busy with his main job related to insects and infectious diseases. He was friendly and easy to talk to, and I was left with the impression that he treated young people with sincerity and care.

As I wrote in the opening article of Origami Tanteidan Newsletter No. 51 (August 1998), I was deeply shocked when I saw Tsuda's model "Makigai" (Conch Shell). I think it is a representative example of a work that uses box-pleating as a "design element" rather than "to fold out many edges." An organic curved surface, a shape that seems to contain air and wrap around its surroundings. His overwhelming technical ability and power of expression are common to his other three-dimensional models. The delicate processing gives the impression that it was created through a series of silent struggles with the existing materials right in front of our eyes. It is clear to Tsuda that, even in the process where the standards for folding locations and amounts were not illustrated, it comes across that it must have been "a clear, confident fold line that was the only way to do it in that model". It is extremely unfortunate that we will not be able to see the works that were supposed to continue to be created. Thank you for your hard work. Thank you very much. Rest in peace.

#### ◆ A meeting to think about the future of origami



By Eiko Matsuura, board member, Japan Origami Academic Society (JOAS)

Speaking of Tsuda, before he knew it better, I had the impression that he was always tanned and on a business trip to Southeast Asia. Maybe it was around a time when things had calmed down a bit. From 2013 to 2015, Yamaguchi, Nishikawa, Tsuda, who was the executive director of the Nippon Origami Association at the time, and Shoji Shigematsu held a drinking party to think about the future of the Japanese origami world. There was a time when it was open. I was nervous at first because he was the author of "Sosaku origami wo tsukuru" [Designing Origami Models]. But he was a very calm and friendly person.

During the meeting, we thought about the copyright of origami and came up with the idea of a web version of the origami museum. The completion and release of the "Origami Art Museum" and its content "Hidden Orikata Senbazuru" reproductions are, of course, the result of the hard work of the young members who prepared the data and created the site. However, Tsuda, who was the board chair at the time, was behind it.

I heard rumors that a collection of Tsuda's Works would be published, but he passed away before it was completed. I'm so sorry. I pray that his soul may rest in peace.

#### ◆ Kind and gentle Tsuda

By Tomoaki Ono, board member, Japan Origami Academic Society (JOAS)

The Origami Art Museum Management Committee was established at JOAS in January 2014, and after I started participating in monthly meetings, I started talking with Tsuda, who was the committee chair. At that meeting, Tsuda worked very energetically, coming up with his own ideas regarding the history and purpose of the establishment (his words are still posted on the museum website), exhibition content, and future plans. As a result of this initiative, the "Origami Art Museum" was opened to the public in August of the same year, in conjunction with the 60SME. I oversaw taking the minutes at this meeting, so I had to be present every time, but there were times when I couldn't find the time. I still can't forget Tsuda's kind words to me, saying, "It's enough if you only participate when it's convenient for you."

As a Ghibli fan, I was a big fan of Tsuda's origami work "Omushi" even before the conference, and I had the pleasure of folding the "Omushi" (without compound eyes), which was available as a diagram. One day, in an interview article with Tsuda in Monthly "Quarterly Oru" magazine, I saw a photo of a king "Omushi" with 14 compound eyes folded out, and I desperately tried to "fold by staring" until it was completed. It is a good

memory for me that Tsuda was able to see it.

Tsuda has cooperated with us every year to use his works in JOAS's "Model Information for Origami Instructors." Every year, I am asked to compile a preliminary questionnaire for creators regarding this matter, and to my surprise, every year, Tsuda always responded almost on the same day. I had no idea that my most recent response to the questionnaire in preparation for the 2023 edition would be my last interaction with Tsuda. I was hoping to meet you at a convention someday, but I am very disappointed. I sincerely pray that Tsuda rests in peace.

#### ◆ Tsuda, creator of "Geta"

By Makoto Yamaguchi, Vice President, Japan Origami Academic Society (JOAS)

While Tsuda has been busy with research activities for many years, he has maintained a passion for origami and has been involved in the world of origami. Despite his busy schedule, he served as a board member for the Japan Origami Academic Society for many years. One of his achievements by Tsuda was to open the website "Origami Art Museum" in the year he was the board chair. Since 2019, when he reached the retirement age of 65 years, he has supported our association as an advisor. Also, he has contributed a lot to this magazine.

I met Tsuda in the early days of my tenure at the Nippon Origami Association, during the first World Origami Exhibition in the 1970s. Tsuda-san's model was exhibited, and I felt that it was elegant and had a good taste. To be honest, I was the one who discovered Tsuda's signature model, "Geta," buried in the cardboard of submitted models. At that time, there weren't many people in the origami world who could be called artists, and perhaps because they weren't worthy of the attention of the bigwigs at the time, they never had a chance to have their models introduced. I was shocked by the streamlined and precisely drawn shape, so I drew a diagram and published it in the Monthly "Origami" magazine, which is how that model came to be. I am proud to have had the opportunity to introduce this masterpiece. Later, Tsuda-san also thanked me for that.

When Tsuda was working at Nagasaki University, I met him when we picked up the "Kodama Collection," which was a collection of materials by origami researcher Kazuo Kodama from Nagasaki, and he helped us.

Tsuda has written several specialized books on mosquitoes, but his only book on origami is "Sosaku origami wo tsukuru" [Designing Origami Models] (Otsuki Shoten, 1985). Although Tsuda produced many creative models after that, it is extremely regrettable that a collection of his personal models was not released to



the world during his lifetime.

I heard that he had cancer three years ago, but I didn't ask for any details. And since then, I haven't heard any bad rumors, so I believed he was on the road to recovery. I promised to publish the model collection book electronically, but deeply regret not being able to do so in time. It's a shame that he passed away before me, even though he was 10 years younger. We will be pleased to publish his posthumous book "Yoshio Tsuda's Collection of Works". I sincerely pray for his soul to rest in peace.

### ◆ Memories of my father and origami

By Sayoko Tsuda

I think my father was always folding something.

When he got home from work and before and after dinner, my father would sit at his desk and create his models using newspaper flyers (there was always a cardboard box in his room full of prototypes made of flyers).

When I was little, I remember going to an origami exhibition with my mother and sister. There were various models on display, and when I found Yoshio Tsuda's name and models among them, I thought, "Dads is amazing".

An origami class was also held at that time, and I was surprised to see my father carefully and gently teaching other children and adults how to fold a model. That's because my father, when he taught my younger sister and I how to fold origami at home, he was quite a Spartan.

There were many origami books at home, and there were some that I wanted to try folding. However, I couldn't bring myself to ask my father how to fold it. Still, my younger sister persevered and followed her father's guidance, and was able to fold models like the "Hydrangea" and "Owl."

As we've grown older, we don't fold origami as much as we used to, but when he designed a new model, my father looked happy and would bring it over. I would give him my impressions and sometimes would make requests. I remember well the look on my father's face when I made requests. On the other hand, when I praised him and said, "That's amazing!", he smiled with pride.

I think my father really loved origami.

### Biography of Yoshio Tsuda

1954: Born in Tokyo

1976: Graduated from Iwate University Faculty of Agriculture

1980: Finished Okayama University Graduate School of Agriculture

1985: Obtained Doctor of Agriculture from Kyoto

University

1988: Worked at Nagasaki University, Institute of Tropical Medicine, Department of Pest Zoology

2002: Professor, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University; obtained Doctor of Medicine at the same university

2003: National Institute of Infectious Diseases, Department of Insect Medicine, Director, Office 1, board member of the Japan Origami Academic Society since April 2006 (17th term)

2011: Received the 54th Japan Society of Sanitary Zoology Award

April 2014 to March 2015 (17th term): Board member of Japan Origami Academic Society

2017: National Institute of Infectious Diseases, Department of Insect Medicine, Director

From April 2019 (30th term): Advisor of the Japan Origami Academic Society

Editor's note: Photos of Mr. Tsuda's work are published on pages 22-23

### List of Figures

Page 15 top right: Tsuda had a wonderful smile.

Page 15 bottom: Variations in Tsuda's Butterfly patterns, none of which are the same.

Page 16 bottom: Tsuda giving a lecture on "mini dinosaurs" (photo by Kawamura)

Page 17 top right: With Wendy, OrigamiUSA president, at the 2014 Tanteidan convention

Page 17 bottom: Previously published articles written by Yoshio Tsuda and related articles

---

## (Page 18) From the Bookshelves of the JOAS Library

### Book #94: "Sosaku origami wo tsukuru" (Designing Origami Models) by Tsuda Yoshio Article by Shotaro Mineo

Shotaro Mineo = Origami artist. Graduated from Keio University, Faculty of Law, Department of Law, enrolled in the Department of Painting, Department of Japanese Painting, Faculty of Fine Arts, Tama Art University.

### [Introduction]

The book I would like to introduce this time is "Designing Origami Models" (Image 1) by Yoshio Tsuda, published by Otsuki Shoten in September 1985. First, in introducing this book, I would like to express my condolences to Tsuda, who passed away in January of this year [2024] and pay tribute to his work during his lifetime. I would also like to thank everyone at the editorial department for letting me present this book.

For me, this book is a special one as it was the first book that inspired me to start creating creative origami. As one of the many origami creators who have been influenced by this book, I hope that its charm can be conveyed to as many people as possible.

Now, as some of you may know, this is the second time this book has been introduced in this magazine, after Hideo Komatsu introduced it in issue 107. Komatsu's introduction focuses on the technical aspects and provides a worthwhile explanation while also touching on the history of the development of creative methods. If you have that issue, please refer to that article too. In this article, I would like to present the uniqueness of the book, which was written with a close eye on those who are trying to design origami, while also including my own experience of reading this book and starting creative origami.

### **[My encounter with this book]**

I first encountered this book in my elementary school library. At the time, I was in the lower grades of elementary school and was just getting hooked on origami, finding origami patterns at random from books and the internet. One day, I found an old-fashioned origami book in the library. As soon as I picked it up, I remember being struck by the beauty of the bird motif on the cover (Image 2). Since then, I've borrowed it many times and read it so much that I've become even more addicted to origami than ever before. Until then, I had only been able to arrange existing models, but through this book I started creating in earnest. After graduating from elementary school, I bought a used item on an auction site and have kept it to this day. It's truly a bible for me. I feel that the creative methods and modeling sensibilities I learned from this book continue to have a strong influence on my current work.

### **[Structure of this book]**

- Introduction to origami: Understanding folding diagrams
- Invitation to creative origami and detailed explanation of the creation method
- Creative origami practice

This book consists of three chapters, and as you read it, it is structured with the goal that even beginners of origami will be able to create it. It is an enjoyable book that includes not only sample photos and folding diagrams, but also explanations of basic folding techniques, detailed explanations of creative methods, and anecdotes from the time of creation, along with Tsuda's easy-to-understand writings.

### **[Creation method in this book]**

Chapter 2, "An Invitation to Creative Origami,"

explains three specific creative processes, as well as practical origami creation methods, such as the process of improvement and application to other motifs. At the beginning of this chapter, Tsuda asks, "So what is the theory of creation? When you think about it, it's not that clear. However, it seems that the current situation is that what used to be nothing more than repeated trial and error, has become somewhat consistent through the experiences of creators." (p30) Considering the year of publication of this book, it can be inferred that this was before the origami creation methodologies and design methods that are widely used today were systematized. The first thing introduced is a method for creating a fish entitled "Selection and transformation of fish base." The method of applying the bases mentioned in the previous chapter is used, and the process begins by simplifying the image of the motif and creating it using a simple folding method (Image 3). He then goes on to make improvements, such as the position of the pectoral fins, to bring it closer to the image he envisioned, noting that "the beauty of a simple work is that it stimulates the desire for improvement" (p31). After comparing the model before improvement with the image you want to create, we will search for the basic shape necessary to reproduce the image. In this way, using the basic shape of a fish, a fish with gills, pectoral fins, and tail fins reproduced is completed. Furthermore, it is very practical to apply this fish to other motifs such as goldfish and monkfish.

In fact, even now, I often follow the content of this book and create models from the base form through trial and error. I think this is a very effective method for people who are just starting to create. After that, he presented various creative methods using the same process, such as "using tree modules" and "combining the frog base". In creating the frog, the content is quite maniac, including the use of the creation method by adding [paper] areas to fold out the fingers, which was mentioned in Komatsu's review. (Images 4 and 5)

### **[Introduction of creative examples]**

In Chapter 3 of "Creative Origami in Practice", you will find origami illustrations of the various models that Tsuda actually created, along with anecdotes from when they were created. Like Chapter 2, this chapter also introduces the improvement and application process of the works and includes models with outstanding modeling sense such as "Bivalve Shells", "Five Species of Birds" and "Dinosaurs". The episodes in this chapter should be very relatable to those who create [origami] and are fun to read.

### **[Purpose of this book]**

Although this book was published as the 14th

book in the "Creating with Children" series, its nature is completely different from the so-called folding books. As mentioned earlier, although it starts with basic explanations such as how to read diagrams, it is unique in that it goes into detailed descriptions of creative methods, creative examples, and improvement processes. Also, I have never seen any other book that includes so many episodes from the time of its creation. As can be seen from Tsuda's statement in the afterword, "The most interesting thing about origami is that you can create what is in your heart". This is the main purpose of this book. Instead of simply having readers fold origami, it can be said that the purpose of the book is to convey the joy of creation to readers. Other origami books that are rich in content other than origami diagrams include Jun Maekawa's "Authentic Origami" and Satoshi Kamiya's "Kamiya-style creative origami challenge!", "Origami Design Secrets" by Robert J. Lang, and "Creative Origami Ideas and Techniques" by Fumiaki Kawahata, but no other origami book has been written with such a focus on practical creative methods. At least, I don't think so.

This time, I presented Tsuda's only origami book, "Making Creative Origami." It's been nearly 40 years since it was published, so I think there are fewer opportunities to obtain it. But if you come across it, please pick it up.

---

### **(Page 25) Notice on special issue and additional issues for members**

Up until now, we have been sending out the "Member Special Issue" to supporting members once a year. But starting this term, we will also be sending out two additional "Origami Tanteidan Magazine" special issues a year.

In this term, we have already sent out an "additional issue" in November and January, and the special issue have also been included with this issue. From the next term (35th term), the materials will be distributed three times a year. The additional issues will be distributed in July and November, and in March.

Please, consider this opportunity to upgrading from a magazine subscription to membership.

Also, we will appreciate if you could let everyone you know about the activities of Japan Origami Academic Society (JOAS) and how to join.

\*The folding diagrams included as additional issues were made possible through the cooperation of the creators.

---

### **(Page 26) Crease Pattern Challenge Challenge 150: Eagle Owl**

#### **By Kosuke Nakamura**

Created: 2022/07

Paper Size: 90x90cm

Height: 22cm

The eagle owl is a member of the owl family that has distinctive feathers on its head like horns. I also paid particular attention to the silhouette of the back, so I think I was able to design it so that it can be viewed 360 degrees.

The quadrant arrangement is as follows: The inner quadrant in the center is the eyes and horns, the first and third quadrants are the legs and wings, the second quadrant is for the back to the tail, and the fourth quadrant is the beak and face plate (feathers around the eyes) and belly. The edges between the 1st and 4th quadrants (or the 3rd and 4th quadrants) are the lesser coverts (about the tip of a chicken wing), the 1st and 2nd quadrants (or the 2nd and 3rd quadrants), the edges between the two quadrants become the flight feathers (tips of the wings).

As for the structure, there is a band area along the diagonal line, the first and third quadrants are the bird base, and the second and fourth quadrants are the image of a bag to make the body three-dimensional.

In the crease pattern, the lower left half is the 1st stage and the upper right half is the 2nd stage. Figure 1 shows the basic reference lines. The star mark shows the width of the band area.

Let me explain the procedure for folding the first stage of the crease pattern.

1. Fold the bird base in the 1st and 3rd quadrants by making step-folds based on the reference line on both diagonals.

2. Arrange the corners that correspond to the back of the crane.

3. Fold out the eyes and wing horns in the center.

4. Fold the back and tail feathers in the second quadrant.

5. Fold the beak, face plate, and belly in the fourth quadrant. When folding the first belly pattern, be careful not to overlap on the back side.

6. Fold the lesser coverts and legs.

The second stage of the crease pattern cannot be folded flat. After completing the belly pattern in the fourth quadrant and the wing pattern in the center of the first quadrant, make it three-dimensional. When making it three-dimensional, make the head a rectangular parallelepiped using the sample as reference. Fold the left and right wings so that the flight feathers are pulled toward the back. When finishing, it is a good idea to make both sides of the face plate a concave shape and raise the chest area. There are many lines that cannot be drawn completely in the crease



pattern, and gluing will be required.

With regards to the paper choice, I used "Komi Wrap" for the sample, but I recommend using large, durable paper.

---

## **(Page 27) Diagram: Mosquito By Tsuda Yoshio**

2023

First appearance: Origami Tanteidan Magazine No. 80 (2003) Crease Pattern

Mosquitoes are subject of my research, so I have researched various types of mosquitoes in Japan and Southeast Asia. Considering the morphological characteristics of mosquitoes, there are at least two problems with origami-mosquitoes. One is that they are small, and the other is that their legs, especially their hind legs, are very long. Based on the length of its wings, it is 2.5 to 3 times longer. In order to solve this problem, I created the design by allocating most of the paper to the legs and using the paper remaining in the center to fold the other parts. The paper was used in a diagonal direction, with the hind legs placed along the diagonal to increase length, and the abdomen and head placed at the corners of the paper to reduce paper overlap. There were some problems, but I was able to put it together in a way that seemed appropriate.

The most interesting thing about this model is that the hind legs are located between the front and middle legs. This point has been corrected in steps 77 to 80 of the diagram, but I don't like it a bit. I have been considering ways to solve this problem, but so far I have been able to fold the necessary parts using the enlarged view shown on the right. The position of the legs has also been changed so that the front legs, middle legs, and hind legs are in that order. However, since a considerable amount of paper is used for folding the head, I think this part needs a little more ingenuity, and I think it would be a good idea to consider folding out the antennae.

---

## **(Page 38) The JOAS Report on the 34th Fiscal Year and Its Plans for the 35th Year**

### **1) Members/subscribers, journals**

The number of subscribers for the 34th period (April 2023-March 2024) was 1072 (of which 513 members, as of March 4), a slight increase from the previous period. However, in the medium to long term, the number of members is decreasing, so efforts are being made to increase the number of members by increasing the number of special issues (including diagrams) to members (regular members) to three times a year.

The magazine "Origami Tanteidan Magazine" comes with an English translation (digest) for overseas use, making it virtually bilingual, so it is a publication that can be widely recommended to overseas enthusiasts and researchers. Subscribers to the magazine that carries the latest information and works, and members (subscription to the magazine + special issues+ right to obtain instructor qualifications, etc.) are the main pillars of the society. Starting from the 35th term, subscription fees and membership fees will be increased by approximately 10% due to a significant increase in domestic and international postage rates. However, we hope that you will understand our philosophy of activities and continue to subscribe and become a member.

### **2) Yoshino Issei Fund**

The "Yoshino Issei Fund" continued to receive donations from everyone in 2023. Thank you once again. Invitation grants to Carmen Sprung at the Kyushu Convention in May 2023, invitation grants to Park Jung Woo and Oriol Esteve at the 28th Origami Tanteidan Convention in August, and Nagoya convention in December, the fund subsidized the invitation of Jang Yong-ik. Please note that the expansion of the use of the fund was approved at the 2022 general meeting, and we have amended some of the terms and conditions, so while we will focus on spending on inviting and dispatching creators, we will also cover other academic conference projects. We will make effective use of the funds. We ask for your continued understanding and understanding. The accounting report, along with the society's accounting, will be made at the general meeting scheduled for August 2024.

### **3) Origami Tanteidan Convention**

In 2023, we held the 12th Kyushu Convention (sponsored by the Kyushu Tomo-no-kai Association) in May, the 28th Convention in Tokyo (sponsored by the Japan Origami Academic Society) in August, and the 13th Nagoya Convention (sponsored by the Tokai Tomo-no-kai Association) in December. Events were held face-to-face while also providing an online venue. The 28th convention was held in person for the first time in four years, with Takuro Kashiwamura and Gen Hagiwara serving as managers and sub-managers, and with the help of many volunteers. We believe that the exchange between enthusiasts and creators who have met for the first time in a while as well as for the first time has progressed well. Also, at the same convention, for the first time in four years, we were able to hold the "Creative Origami Popularity Contest Voting" which is equivalent to the annual Creative



Origami Contest. In 2024, it has been decided that the 13th Kyushu Convention will be held in Saga City on May 25th and 26th, and preparations have also begun for the 29th Convention to be held at the University of Tokyo's Hongo Campus in August. The 14th Nagoya Convention will also be scheduled. Although we will continue to utilize the online format, we hope that the event will become a place for face-to-face interaction among origami enthusiasts and researchers.

#### 4) Tomo-no-kai local area group meeting

In 2023, in addition to continuing online regular meetings, face-to-face meetings was also held. With the cooperation of Tomo-no-Kai organizers, volunteers, and instructors, we held events in Tohoku (12 times), Tokyo (12 times), Tokai (11 times), Kyushu (11 times), Regular meetings were held in Kansai (7 times) and Shizuoka (11 times) (the number of meetings is the total of face-to-face and online meetings). For online sessions, we will continue to operate on a paid system using the online Passport. We will continue to operate by taking advantage of the face-to-face and online formats, so we appreciate your understanding.

#### 5) Other business reports/plans

◇ In the "Origami Library" project, which aims to collect and organize origami materials, we are increasing the catalog of collected and organized materials, including those that have remained unorganized for a long time. Currently, approximately 2000 items can be searched on the web. Information regarding its use will be provided on the website.

◇ Regarding the "Origami Instructor" system, which aims to develop human resources who will contribute to the dissemination of origami, two people were certified in FY2023, bringing the total number of certified users to about 80 so far. The exam will be held at the same time as the registration of convention lecturers, including those hosted by Tomo no Kai. So please check the website. With the understanding of many origami artists, the "list of model permissions that can be used in origami classes". For origami instructors, a permission list of about 30 origami artists is available, but we plan to increase the number of artists. Additionally, we are considering a teacher referral system based on a survey of instructors about how they would respond when the society receives a request to teach origami.

◇ The 34th Origami Science, Mathematics, and Educational Research Meeting was held in-person at the Japan Advanced Institute of Science and Technology Graduate University and the University of Tokyo, respectively, in June and 35th in November. The lectures were also delivered online. We would like to

take this opportunity to thank all the university officials and researchers who cooperated. In 2024, we plan to hold the event twice a year with the cooperation of university officials. Please look forward to our future origami research activities that will expand across disciplines.

◇ In 2023, the 9th issue of the academic journal "Origami Science" was published as a PDF version. Additionally, from June 2023, most of the papers previously published in "Origami Science" will be open access for anyone to view. Approximately 30 papers related to mathematics, engineering, education, etc. are available for viewing (<https://origami.jp/science/>). Open access is a global trend in the research environment, and we hope that it will help advance origami research.

◇ For the 2023 WOD (World Origami Days), a webpage was set up during the WOD period (October 21st to November 11th). The philosophy of WOD has become well-established worldwide, and we plan to continue our activities in line with the group's goal of popularizing origami.

◇ We are also conducting various studies regarding the intellectual property rights of origami. The publication of the model permission list for origami instructors of the Japan Origami Academic Society is also an activity supported by this research. We are also asking for your donations to the "Origami Intellectual Property Review Fund," which funds research activities on intellectual property issues (donation guidelines posted at <https://origami.jp/iprights/>). We will continue to steadily promote research on intellectual property rights in origami.

---

### (Page 39) Orisuzi ("Fold Creases") Enjoy Echizen Washi By Tomohiro Miyanaga

Fortunately, I was born in the suburbs of Echizen City, Fukui Prefecture, where Echizen washi paper is produced, so I often visited the washi village during my student days, as I have used washi paper in over 80% of the works I have created to date. This time I would like to introduce a little about the charm of Echizen Washi as a way of gratitude.

Echizen Washi uses techniques such as the use of molds, inking, and stitching, and by combining these techniques, products with a wide variety of colors, thicknesses, textures, and patterns are created. In particular, when it comes to color and texture, there are exquisite pieces which will ask: "Isn't this color of paper designed to become that bird?" or "It would definitely look cool if you folded Mr. \_\_\_'s dragon out of this paper." You can find them one after another. Personally,

my favorites are Kumohada, Unryu, and Momigami, and I buy as many as I can. Then I keep them on display stacked. When I need them, I turn them into models (so I keep large amount of inventory). My motivation for creating models is that I want to get my work out into the public and all the paper to see the light of day as soon as possible.

Echizen washi paper is often thicker than other washi papers, so when making complex works, I try to fold it with larger paper. I also often do wet folding because most of the colors do not fade even if they get wet. You can decide on the shape by wetting a wide area at important points in the folding process or at the finishing stage, or you can create firm lines by simply tracing the creases with a water brush, pressing down, and letting it dry. The surface of the model may become fuzzy, but by applying CMC even just on the creases, the outline of the work will become sharper. All of them require a certain amount of time and effort, but if handled carefully, you can create a piece that will retain its shape for many years.

I think the Hokuriku Shinkansen [bullet train] will be extended this spring, making it easier to access Washi no Sato. At the "Kami and Paper Festival" held every Golden Week, papers that are not normally seen in stores are sold at great prices, and the piles of paper from each paper mill are spectacular. If you have a chance to visit Hokuriku, please enjoy your once-in-a-



lifetime encounter with paper.

### ◆ Price change announcement

As announced in the previous issue, the prices of subscription and membership fees will be revised. Please check the notice in the previous issue. In 2024, there will be a significant increase in domestic and international postage rates. Accordingly, the Japan Origami Academic Society will revise its membership and subscription fees as below. This price will be applied from the 35th membership fee starting from April 2024. Please check the society website for details.

Membership fee (domestic): 8,400 yen → 9,000 yen  
For PayPal, 9,400 yen including handling fee

Subscription fee (domestic): 4,200 yen → 4,800 yen  
For PayPal, 5,020 yen including handling fee.  
Membership fee (overseas): 11,000 yen → 13,000 yen  
For PayPal, 13,500 yen including handling fee  
Subscription fee (overseas): 5,900 yen → 7,900 yen  
For PayPal, 8,320 yen including handling fee.

### ◆ Announcement of the 13th Origami Tanteidan Kyushu Convention

As the new year begins and two busy months have passed, I suddenly remember Kyushu... Kyushu Convention will be held again this year! ATC, seminars, social gatherings, and work exhibitions. This is your chance to meet the invited guest Gen Hagiwara in person! Fold, smile, fold it again, right and left. How about a relaxing weekend filled with origami in Saga before the rainy season? After enjoying a conversation with a familiar friend or a nostalgic person, you can take a relaxing soak in the hot springs or indulge in Ariake's delicacies luxury. Please enjoy your trip ♪

And for those of you who unfortunately can't travel or whose schedules don't match up, you can join us via Zoom! After the convention, you can view the recordings at your leisure. Enjoy May!

#### ● 13th Origami Tanteidan Kyushu Convention

Date: May 25th (Sat) and 26th (Sun), 2024

Venue and capacity: Hybrid event.

Venue = Saga Prefectural Avance

Capacity: Approximately 100 people

Zoom = No limit of number of people

Special Guest: Gen Hagiwara

(Participation in person)

Registration fee: Same price for in-person and Zoom.

Adult 4,000 yen

Student 3,000 yen

Registration for participation will be accepted from around the end of March.

You can apply online at the convention page on the Kyushu Tomo no Kai blog.

● Social gathering dinner banquet: May 25th (Sat)  
Hotel Chiyodakan 7,000 yen (only for those interested)

● Accommodation: Please make your own reservations.

● Classes: At the venue & Zoom

1 period of 60 minutes or 90 minutes.  
Approximately 25 periods in total

\*Call for teachers! If you would like to teach, please apply at the website below.

\*All classes will be recorded using Zoom. Lectures held at the venue will also be streamed in real time and recorded.

● Model exhibition & presentation: Venue & Zoom

The model presentation is a time for everyone to bring their model and show it to each other. It doesn't have to be your own creation. We look forward to seeing your masterpiece!

\*If you wish to participate, please check the appropriate box when applying.

● ATC exchange meeting: Swap exchange by mail

This is an exchange event sponsored by the Kyushu Tomo-no-kai Association. You don't have to be a convention attendee to participate in the exchange. Only convention participants can participate in and observe the debriefing sessions (in-person and through Zoom) held during the convention.

Theme "Lucky Item"

Capacity: Maximum 25 people

Advance registration deadline: April 10th

Card mailing deadline: Must arrive by May 20th.

\*Advance registration is required to participate. In case of large number of applicants, we may adjust.

\*On April 11th, we will announce the number of participants who have pre-registered, including the host, so please create the required number of cards.

\*For advance registrations, please apply from the website. This will be treated separately from the application for convention.

● New project! Origami Plus: Free exchange of origami items

This is an event where you can freely exchange brooches and accessories made with origami works, leftover past ATCs, etc.

Please enter by submitting one item to the project reception desk. Please see the website for details.

\*Applicable only to participants who will be present at the venue. No mail-in participation.

● Kyushu Convention website <https://q-syu.squares.net/blog.cgi> Details and application form will be posted on this address.

● Contact information

Email: [q-syu@plala.to](mailto:q-syu@plala.to)

The contents of the convention may change due to unavoidable circumstances, so please check the website for the latest information. All our staff will be looking forward to your participation!

## ◆ 36th Origami Science/Mathematics/Education Research Conference

The 36th Origami Science, Mathematics, and Education Research Conference will be held on Saturday, May 18th and Sunday, May 19th at the University of Tsukuba in Ibaraki Prefecture. Last year, when face-to-face meetings were resumed, the two-day event was held at the Hokuriku Advanced Institute

of Science and Technology Graduate University in Ishikawa Prefecture and the Komaba Campus of the University of Tokyo, with the cooperation of university officials. This time as well, it will be held over two days at the University of Tsukuba. The presentations of each researcher will also be distributed online.

The number of participants in this meeting was approximately 50 and 80 in the previous meetings. Origami researchers and enthusiasts gather across disciplines, and the content ranges from mathematics, engineering, to historical research. Although many of the studies related to folding, such as architectural engineering and mathematics, involve specialized content, the unique feature of this research group is that it can also be found to be connected to origami as a craft or art that enjoys folding. For example, computer-aided design has become indispensable in the design of "tessellation fold" to create intricate patterns, and in the design of three-dimensional shapes that include curves. Anyone can participate in the meeting, so we hope you will be interested.

The event focuses on a workshop format where participants create models using their hands, and last time there was a class on the "new method" of Miura folding given by Koryo Miura himself. We will also have time for tours of university laboratories and museums, and this time we will once again have Jun Mitani give a tour of the Mitani Laboratory, which is known for supervising the origami work in Shin Godzilla.

• Participation fee will be 2000 yen (1000 yen only online).

The schedule will be as follows:

• April 25th: Deadline for presenters (apply online. There are no qualification or restrictions for presenters)

• May 1st: Participation application starts

• May 18th and 19th: Conference days

The venue is University of Tsukuba, Tsukuba Campus (Tennodai Campus) General Research Building B Building 110, 45 minutes from Akihabara (Tokyo) by Tsukuba Express towards Tsukuba Station, or by bus taking the Tsukuba University Loop (clockwise) at bus terminal number 6 at the station bus terminal for about 15 minutes and getting off at Daiichi Area Mae. Although it seems far from Tokyo, it is possible to make a day trip, so please consider participating. Please see the website for details. As an interdisciplinary research conference on origami, the 8th International Conference on Origami Science, Mathematics and Education (8OSME) will be held from July 16th to 18th at Swinburne University of Technology in Melbourne, Australia.



## ◆ Consideration of “Instructor Referral System (tentative name)”

Tomoaki Ono

The Japan Origami Academic Society (hereinafter referred to as “JOAS”) sometimes receives requests to provide reference for people who can teach at origami classes, etc. So JOAS has considered establishing the “Instructor Referral System (tentative name)” to quickly refer to suitable people. Specifically, the selection will be made from among 1) JOAS certified origami instructors, and 2) artists who have submitted their works to the “models available for origami classes” for origami instructors (hereinafter referred to as “cooperating artists”). As a first step, we recently conducted a survey regarding their intention to accept the position, their honorarium, geographical areas where they can travel to, the level of difficulty of models that they can teach, and the age group of their students. We now know that we have been able to obtain the cooperation of approximately 40 individuals. Based on these results, we are currently formulating a framework that includes not only costs but also the selection process.

In next term’s “Information on Models That Can Be Used in Origami Classes,” we will ask artists to give their consent regarding the use of works by cooperating artists when teaching at events referred by JOAS to be dispatched as instructors under this system. When a cooperating artist is referred through this system, they will be able to select appropriate class models, including their own original works as well as licensed ones listed in the “Model information” section. Mutual use of the same “Model information” by collaborating artists is limited to cases where classes are held at events recommended by JOAS for instructor referral under this system.

Finally, we would like to ask all origami instructors to understand the above-mentioned initiatives and do not forget to pay the instructor renewal fee along with next term’s membership fee.

---

## ◆ Request for Yoshino Issei Fund donations in 2024

The Issei Yoshino Fund was established in memory of the late Issei Yoshino, who was recognized by origami enthusiasts around the world.

Since 1997, we have invited 92 origami specialists from 14 countries. This year, we invited four origami artists who are active in the world to help us interact with them.

We have not yet decided whether to invite origami artists [as special guests] next year, but we would appreciate your continued support to continue this activity.

## Donation solicitation guidelines

We are looking for donations from those who agree with the “Yoshino Life Fund.” We ask that as many people as possible understand the “purpose” and “terms” and contribute.

For accounting purposes, please donate in units of 1,000 yen, up to 50 units.

Remittance by postal transfer: please use the enclosed postal transfer form to make a transfer from your local post office.

Account number: 00190-3-727623

Member name: Yoshino Issei Fund

\*The transfer fee will be borne by the customer.

Transfer money with PayPal: Please send money to [yoshinofund@origami.jp](mailto:yoshinofund@origami.jp) by sending money to the email address.

\*Paypal fees are included in the remittance amount.  
Thank you for your understanding.



## おりづる TOSHUSAI SHARAKU



商品内容プリントおりがみ 15.0cm×15.0cm 56枚  
27柄×2枚、一覧図2枚(同じものが2枚入っています。)

東洲齋写楽第一期の代表作で、日本の重要文化財に指定されている27枚の浮世絵を折鶴の羽に描きました。

This product is inspired by 27 woodblock prints created during the first period of Toshusai Sharaku's artistic career, which have been designated as important cultural properties in Japan. The designs feature Sharaku's artwork on the wings of folded origami cranes.

¥600 (税抜き)  
おりづる 東洲齋写楽  
ユニバーサルデザイン折図入  
2024年4月発売

出典：国立文化財機構所蔵品統合検索システム  
ColBase ( <https://colbase.nich.go.jp/> ) を編集して作成



 **株式会社トヨー**  
<http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品と色などが多少異なる場合があります。  
※表示価格には消費税は含まれておりません。  
※内容・デザインは一部変更になる事があります。  
本 社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12  
TEL03-3882-8161 (代)

大阪支店・名古屋営業所・福岡出張所

